

目 次

- 一、理事長メッセージ
- 二、オンライン授業と学舎のインターネット環境について
- 三、感謝の気持ちで舎生九十六名と共に過ごした十二年間
- 四、高く飛ばんと欲すれば 深く学ばざるを得ないのです
- 五、読破について
- 六、自分が勉強していることについて
- 七、コロナ就活を終えて
- 八、これから求められるまちづくり
- 九、雑記
- 十、新型コロナウイルスの影響
- 十一、遠回りする旅
- 十二、チエルシーグらい、楽しみは
- 十三、決断
- 十四、二年目の東京
- 十五、二年生になつて
- 十六、私の生い立ち
- 十七、ドラマ
- 十八、編集後記

慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程  
慶應義塾大学法学部国際ビジネス法学科

立教大学法学部国際ビジネス法学科  
日本大学理工学部まちづくり工学科  
東京工業大学情報理工学院

慶應義塾大学薬学部薬科学科  
青山学院大学法学部法学科  
早稲田大学文化構想学部社会構築論系  
立教大学社会学部現代文化学科

帝京大学法学部法律学科  
東京工業大学物質理工学院  
東京工業大学工学院  
早稲田大学教育学部  
東京工業大学情報工学院

編集者

公益財団法人岩陽学舎

理事長

伊藤進司

……

舍監・理事

大森隆明

……

舍監

吉井克彦

……

修士一年

山中理央

……

四年

浜根輝也

……

四年

桐原彦也

……

四年

山根彦也

……

三年

中橋真也

……

三年

村航太

……

二年

松嶺真也

……

二年

森嶺真也

……

一年

川吉國也

……



## 理事長メッセージ

公益財団法人岩陽学舎

理事長 伊藤 進吾

岩陽学舎は、明治35年（1902）旧岩国藩主吉川家により創設された、一一〇余年の歴史を有する学生寮であり、現在も学舎を巢立つた多くの舎友（OB）が各界で活躍しています。

創設当時より、質実剛健を旨とする舎風が受け継がれてきましたが、その良さは残しつつも、時代の変化と共に徐々にその姿を変えてしまいました。二人一部屋であった舎室は、完全にプライバシーが保たれるワンルームマンション型の個室となり、インターネットの普及に伴いWi-Fiを完備し、すべての舎室で快適にインターネットが使用できる環境となりました。

また、入舎資格の大見直しを行い、これまで「男子」に限定していた入舎資格を、性別に関係なく「女性」も入舎を可能とするとともに、出身地域についても「岩国・柳井地域出身者」を「徳山地域以東の山口県出身者」といたしました。

岩陽学舎は、首都圏の大学への進学を志す若者のために、安全安心かつ快適な生活環境を提供することをお約束します。岩陽学舎の舎生しか経験することのできない素晴らしい舎友との交流や、同年代の舎生と過ごす学生生活は、素晴らしい人生経験となると確信します。



## オンライン授業と学舎のインターネット環境について

理事 大森 隆司

二〇一九年の春から理事になりました、大森隆司と申します。よろしくお願ひします。岩国高校を昭和四十九年に卒業し、東京大学で大学院まで進学し、工学博士の学位を取得しました。その後は東京農工大、北大と移籍し、今は玉川大で教えています。大学では工学部で、プログラミングやデータサイエンスなどを教えていて、流行りの人工知能や機械学習などを研究しています。

今日、大学はコロナ禍への対応で苦労しています。大学生は若くて元気がよくて活動範囲が広いため、夜の街に限らず普通に活動していてもどこかでコロナウイルスを拾つてくる可能性は低くはありません。いつたん大学にコロナウイルスが入ると、あつという間に大学内に流行してしまいうリスクがあります。そのため大学は自らを閉鎖し、授業はオンラインにして、一年生は四月から一度も大学に行けていない、十月からも時々しか行けない、という状態になっています。

私たち教員も、学生がかわいそうだとは思いながら、他に方法がないのも事実であり、手間を掛けながらオンライン授業を続けてきました。実際、オンライン授業は普通の授業の二倍の手間がかかります。試験の採点は三倍の手間がかかるというのが教員側の認識です。教員にとつても、学生にとつても、コロナウイルスの影響は極めて大きいものがあります。このような大学の閉鎖状態も十月から

はすこし緩和され、対面での指導が不可欠な実習や実験などの一部の授業は大学に学生が来て実施することになりました。コロナの第三波がどつとやってこない限り、来年の三月まではこの状態が続くものと思われます。

オンライン授業を始めて、改めて気が付いたことがあります。それは「教室」という場の力です。オンライン授業では、学生は授業中も自分の家・部屋にいます。ところが自分の家には、授業への集中を妨げる様々な事物があります。また、不明なところを教えるでもらう友だちもいません。そのような環境で、授業に集中して勉強を続けることは、容易ではありません。個人的な感覚では、学生の二割はどのような場所でも、たとえオンライン授業でも授業に集中して、勉強することができます。他に、教室だろうと自宅だろうと、授業に集中することに苦労する学生が二割程度います。そして残りの六割の学生は、自分の周囲の状況に依存して、授業に集中するか、他のものに誘惑されてしまうか、が変化します。その六割の学生さんはとつて、勉強のための機材しかなくて相談できる友人のいる「教室」という場所は、授業への自身の集中を高め導いてくれる空間なのだと思います。すると、朝起きて大学に行くことは、自身をその集中の場に置くための活動ということになります。オンライン授業で何かいいことあるかと学生達に聞きますと、通学の時間がなくなつてゆつくり寝れて嬉しい、という意見が多くあります。しかしそれが本当に本人にとって良いことなのか、疑問に思うところです。さて、ここからは岩陽学舎のインターネット接続の話です。大学

の授業のほとんどがオンラインになって、ZOOMなどのインターネットを経由してのテレビ会議システムが頻繁に使われるようになりました。学陽学舎の学生も例外ではありません。岩陽学舎にはこれまでも全体をカバーするインターネット設備があるのですが、この春からのオンライン授業の集中で、問題が一部で発生したようです。具体的には、ネットワークの反応が遅くなつた、授業の映像がフリーズした、音声が途切れ途切れになつた、というような報告があつたと聞いています。原因是、インターネットの通信速度が不足したことまでは確実です。ただ、それがどういう原因による速度不足であるか、判定しないと対策ができません。

通常、インターネットの通信が遅くなる理由は二つあります。一つは、岩陽学舎内のネットワーク設備の通信容量が少なく、学生さんが同時に何人もオンライン授業やオンラインゲームを使うと、その通信容量を超えてしまう場合です。もう一つは、岩陽学舎に外からつながる外部ネットワークの速度です。外部ネットワークが遅い場合は、学舎内のネットワークが十分に速くても、時間帯によって外部の通信需要が増えると、全体の通信速度は遅くなります。このどちらかによつて、対策が異なります。

この原因を切り分けるため、学生さんにお願いしてネットのスピードテストを時間を変えて数回やつてもらいました。また、舍内のネットワーク機器について大田さんに調べていただきました。その結果、以下のことが判りました。

1、舍内のネットワークは早いときには十分に早い、三十人が同

時にオンライン授業を受けても耐えられる速度であらうと思います。  
2、時間帯により、速度が遅くなる。これは、岩陽学舎の外のネットワークが混雑していると考えられます。その原因是、岩陽学舎のインターネット契約が個人住宅用のベストエフォート型になつているためと推測されます。

以上の経緯で、大田さんには岩陽学舎のインターネット契約を見直すことをお勧めしました。今回、インターネットが遅いことを改善するため、出入りの業者は不必要なところの部品の交換まで含めた見積もりを出してきました。それを本当に必要な部分だけに限定できたものと思います。ただ、インターネット契約を見直すことでどうしても通信費用は高くなります。これは、企業並みの高速ネットワークを備えるためのコストと考えていただき、舍生を募集するときの売りにできたらよいなと思います。

以上

## 感謝の気持ちで舎生九十六名と共に過ごした十二年間

舎監・理事 大田 憲明

今振り返れば、リハビリに取り組んでおられた前任の宮田舎監から平成二十一年九月の数日間に業務引継ぎを行い、十月一日より従事した舎監業務すべてが新鮮に感じられ、舎生の一人ひとりを早く知りたく個別面談を実施させて頂きました。

私にとっては前職でリストラされた中高年層の再就職支援会社でのキャリアコンサルタント業務を十年ばかり経験したことが生かされました。舎生の皆さんは誰もが前向きな姿勢で、それぞれの大学と学舎生活を通じてこれから自分の人生を切り開く意欲に燃え、生き生きとされ常に多くの感動を与えて頂き、私自身の大きなエネルギー源となつておりました。

舎生の皆さんのが社会人として立派に自律し、それぞれの分野で活躍してくれることを願い続けられたからこそ、何とか健康でここまで続けることが出来たと感謝の気持ちでいっぱいです。

また、幸いにもこの間、向阪前理事長、伊藤理事長の統率の下、各役員の皆様のご支援により岩陽学舎が平成二十五年に公益財団法人に認定され、寄付文化の体制も徐々にではありますが、拡がつてきていることがとても嬉しいです。

ここ数年、新入舎生の激減が大きな検討課題となつておりますが、これの対策に微力ながら全力を注ぎたいと思います。幸いにも今年八月に、松重評議員のご紹介で後任の三宅克彦様に舎監を引き継い

で戴くこととなり、現在、業務引継ぎ中です。

素晴らしいキャリアと私には足りなかつた真面目で几帳面、更に見識をお持ちなので、安心して引き継ぐことができます。

当面、理事は継続し、大きな課題に向けて頑張りますので、これからもよろしくお願ひいたします。



## 高く飛ばんと欲すれば 深く学ばざるを得ないのであります

舎監 三宅 克彦

私は、勉強しない学生でした。大学の講義には極力出席せず、所属していたクラブの練習にだけ顔を出し、クラブのコンパや友人と飲み会で酒を飲む、それが私の生活のリズムの全てでした。

よく卒業できたものだ、と心から思いますが、語学とその他の必須科目的単位だけは何とか取っていたので、4年間で卒業出来てしましました。ご縁に恵まれて就職も決まり、あとは大学を卒業して社会人になるだけでしたが、すごく不安でした。こんなに勉強しないで社会に出て、果たして通用するものだろうか？……通用、するわけがないですね！！

不安だらけのまま、卒業式の日がやってきました。大きな体育館。

成績優秀者の表彰や、卒業生総代のいわゆる答辞、などが続きます。

私は、無縁な世界でした。

式が進み総長の挨拶が始まります。卒業を寿ぐ、型通りのお祝いに続き、やがて総長が変なことを言い始めました。「皆さんは、大学を卒業する今日をもつて、長かった勉強の時期がいよいよ終わり、これからは働く時期になる、と思っているかもしれません、それは間違いです。」

「皆さんはこれからも様々な事柄と出会い、体験し、学んで行かなくてはなりません。ヒトにとって勉強は一生続くものであり、その意味で皆さんは生涯本学の学生であり続けるのです。」

「本日、卒業式という通過点は通り過ぎますが、本学の卒業生という看板は、皆さんにずっと付いて回ります。本学の卒業生として、どうか生涯深く学び続け、社会のために貢献し続ける人であつてください。」

数千人が入る体育館の中で、『この祝辞は私一人のために贈られているのだ！』とさえ思ってしまいました。『そうだったのか！　まだこれからもずっと勉強の時間が続くというのなら、社会に出てこれから勉強すれば、まだ追いつけるかもしれない！……』

ここまで読んで、私に共鳴していただいたそこの貴方、間違いです！！！。遅ればななか取り戻せるものではありません。自分といふ人生を、常に緊張感をもつて全力で駆け抜ける。やはり、それがベストのはずです！

しかしながら、回り道や失敗を体験したからこそ、見えていた景色もあつたかもしれません。本当に無力な私ではありますが、私だからこそ可能な貢献を、何とか一生懸命考えて実践できていければ幸いかと存じます。

歴史ある岩陽学舎の舎監を、精一杯務めさせていただく所存ですのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 読破について

慶應義塾大学 経済学研究科 後期博士課程 一年

吉井 舜也

特に引っ越す動機もなくダラダラとしているうちに、博士課程に進学しても岩陽学舎に居つくことになってしまった。思い切って環境を変えることも必要と思う一方、コロナ禍のなか、もし引越しをして馴染みのない土地に投げ出されていたかと想像すると同じ場所にいて良かったと安心する。岩陽学舎様様である。

さて、博士課程ともなると本を読まないという訳にはいかない。専攻分野の知識を得ることはもちろんだが、何か教養的なものごとも知つていなければいけないような気がしてくる。そうなると、まず、自分の専攻と近い分野の本を読んでみる。さらにその分野の周辺の分野も目を通してみる。これでは内容が偏ってしまうので、たまには全然馴染みのないものに手を伸ばしてみる。といった具合である。もちろん専門書だけではなく一般向けのものや小説だつて読む。漫画だつてちゃんとした読書である。このような書きぶりだと、私の読書量がさも膨大であるかのように思われる読者もいるかもしれないが、決してそのようなことはない。私は自身を読書家とは思っていないし、現に私の何倍も本を読んでいる人も周りに少なくない。精々平均よりは多く読んでいるといつた程度だろう。

これまでのんびりと読書と付き合ってきた自分であるが、年を経るごとに読書について思うところも出てくる。昔は、読書とは知識

を得るという目的に立つのが最も優れた読み方で、物語を読むのは知識を得るよりはさほど重要な位置を占めるではない、などと考えていたこともあった。今思えば完璧に誤った考え方である。書物の内容に貴賤はない。こんな簡単なことに気がつくのに、えらく時間をかけてしまったものだ。読書を続けていれば、少しずつ読書に対する姿勢も変化していくし、さらに言えば、その重要性を度々再確認させられる。

しかし、ここで一つ私には避けては通れない問題が出てくる。読書がしんどい。初めから最後まで読みきらないまま放置された本や、そもそも貰すらめくられず積読となつた本がどれだけあるだろう。読む気はあるのだ。むしろやる気だけは誰にも負けないぐらいである。だがしんどいのだ。私以外にもそう感じている人も、もしかしたら少なからずいるかもしれない。

生まれて初めて読んだ本を途中で投げ出したという人はほとんどいないだろう。その後も当面は苦もなく最後まで読みきついていたはずだ。では、どこで読書を億劫に感じるようになつたのだろう。さっぱり思い出せない。具体的にいつからだつたかはさておき、読む本の内容は子供の時から徐々に難しくなっていく。一生絵本しか読まない人間などいないだろう。ということは、どこかで読破する喜びと困難さが均衡している時点があるのは確かにようである。そして、いつの間にか読破の困難さのほうが大きくなつてしまつてゐるのである。本が最後まで読み通せない。これは真剣に向き合わねばならぬ問題である。

この問題に直面している人がそう少くないということは、本屋に行けば速読術などの、本を読むための本が溢れていることを考えれば想像に難くないであろう。はたまた、話題のものや定番ともなると、その解説本まであつたりする。正直、こんなもので本が苦もなく、スラスラ読めるようになるのなら訳はない。しかし、このような本を読むための本がなくならないのは、それに手を伸ばす人がいるからに他ならない。

私の経験では、読書力を鍛えるには大作を読むのが一番良いように思われる。本を最後まで読みきれないのに、それを克服するためには長いものを読めとは、一見矛盾しているよう見えるかもしれない。しかし、これがなかなか有効なのだ。話をランニングに例えてみよう。フルマラソンを完走したことがあるものと5kmしか走ったことのないものでは、同じ距離を走るにしても精神的負担は全然違うだろう。読書だって同じで、内容のつまつた長編を読んだことのあるものと、漫画しか読まないものでは、同じ本を読むにしてもそこに費やす労力は変わつて来るはずである。大作というものを経験するのは、読書のハードルを下げるにもつてこいである。と、言つてはみるもの、この営みもそう易しいものではない。

数年前にピケティの『二十一世紀の資本』という本が世界的に注目を浴びた。こちらは日本語訳版では五百頁を超える長さであり、内容も後の経済学史に名を残すような、まさに大作というふざわしいものであった。この『二十一世紀の資本』は発売当初、専門書ながら難しい数式もなく図も豊富で読みやすいとの触れ込みであつ

た。ところが、気づいた頃にはそのような触れ込みも影を潜め、いつの間にか、大きなインパクトを与えたがらもなかなか読み切ることのできない作品と、評されるようになつて行った。要するに、途中で投げ出した人が続出したのである。専門書としてはかなり読みやすい部類だったとは思うが、それでもやはり大作を読むということは生半可なことではないのである。

幸い私は経済学部に在籍していたこともあり、意地で最後までこの大著を読み終えることができた。そして、『二十一世紀の資本』を読破したという経験は、私が読書するにあたり大きな糧となつてゐる。言つてみれば、RPGでもまちまとスライムばかりたおすのではなく、ドラゴンをたおして一気に経験値を稼いだような気分になつたのである。おかげで、読書がしんどいと文句を言いながらもそのしんどさも大分軽減されている。

大作を読むというのは読書の経験値を一気に稼げるが、一方でそれは決して容易ではない。しかし、幸いなことに、読書にはマラソンと違つて、いよいよ時間制限がない。マラソンだと流石に一週間かけて完走というわけにはいかないが、読書はいくら時間がかかるても問題ない。とにかく読み切ることが大切なのである。内容の理解も大切であるが、そもそもどんな本でも内容を完璧に理解するのはしごく困難である。人間わかつているつもりでも、実はわかつていいのだ。さらに、はじめわからなくとも、最後まで読めば理解できるということも少なくない。そうなつてくると、もう、読み切るしかないのである。

話は変わるが、不思議なもので大作というものは代替が効かない。先述の通り名著というものには解説本が付きものである。『二十一世紀の資本』にも多くの解説本が出ており、私も一冊だけマンガの解説本を買ったことがある。正直なところ、買つても意味はなかつた。やっぱり元の方を読まないとダメなのだ。他にも、小説のコミカライズといったものもある。こちらについては、私もたまに読む。とは言つても長編を読むとき、混乱しないように、予め話の概要を頭に入れておくことが目的である。そんなことをすれば、展開がわかつてしまい、元の作品がつまらなくなるのではないかと、思われるものもあるかもしれない。しかし、解説本には微塵も見せ場を与えて、むしろそれを、自身をより味わつてもらうためのガイドマップとしてしまうのが、優れた小説の畏ろしいところなのだ。やはり小説もオリジナルのものを読まないと本当の面白さは伝わつてこない。

偉大な著作家について述べた本を読もうとする者は多々いても、それ自身を読もうとする者はなんと少ないことか、とショウペンハウエルが言つていたと思うが、実に言い得て妙である。名著を代わりの何かで済ませようなどできないのだ。

これまで一冊を読み切ることの大切さを偉そうに書いてきたが、誤解しないでほしいのは、私は元来読書を億劫に感じる人間であるということである。現に途中までしか読んでいない本や積読もたくさんある。そんな中、最近読んだものの一つにカミュの『異邦人』があつた。実は、この作品、半分から7割ぐらい読んで、そのまま読まなくなり、はじめから読み直しということを3回ほどしてしま

つているのだ。一回中断したら本は内容がすべて頭から抜けてしまつて、はじめから読み直しなのだ。中断というのも何をもつてそういうか難しいが、私の考えでは、頭の片隅から関心が薄れてしまつたらどうか。なにはともあれ読み直しなのである。こんなバカバカしい思いをしながら読みはじめたものは読み切る以外にないと思ひ原稿の題材とした次第である。

ちなみに、積読は読みたいという気持ちが自身の身体的限界を上回つている状態なので、こちらについては否定する気もないし。むしろ肯定的である。



## 自分が勉強していることについて

東京工業大学 情報理工学院 修士一年

山中 理央

大学に入つてから、友人や親戚からどういうことを勉強しているのかと聞かれることがたまにある。私の専門は数学なのだが、こうすることを聞かれると非常に困ってしまう。私は理学部の数学科に所属しているわけではなく、あくまで工学部の中で数学をやってきたため、カリキュラムとしても『数学を知ること』をそれほど要請されなかつたし、私は勤勉な学生ではなかつたので、数学に対する理解が及んでいない。したがつて、そういう質問を受けても、分からぬというのが本音である。しかし、せつかく聞いてもらつたのに「分からぬ。」の一言で会話を終わらせるのも申し訳ない気持ちになるので、そのときは私なりの解釈を曖昧に答えていい。この答えに対し、友人や親戚の方々は「よくわからないが何やら難しそうなことをやつているのだね。」というような反応をする。このやり取りの中においては、誰も本格的な議論を望んでいるわけではないのでこれでいいのだろうと思う。しかし、自分が勉強していることくらいはきちんと説明できなくてはならないのが本当である。

私は現在、大学院の修士課程に所属している。博士課程に進学する希望は無いので、今後は就職活動をすることになるのだが、面接

で専門分野について答えなければならないのである。面接においては、私のスキルを最大限、相手に伝えなければならない。つまり、私は面接官に対して、私の学習している数学について『わかりやすく』説明しなければならないのである。こうなつてみると先程までの話が変わつてくる。具体例を用いて相手に分かるように説明しなければならないし、そのためには自分の専門分野に関して深い理解が必要である。こういうことを言うと、大学院生なのだからできつて当然だろうと思われるかもしれない。そういうように考えてしまふのは気持ちとしてはわからなくはない。実際、一般に理系と言われて想像されるような分野（医学部や工学部の諸学科）は社会においてその学習内容の使われ方がわかりやすく、説明がしやすいと思う。しかし、数学のような理論系と言われる分野にはそれが当てはまらない。数学は社会でいろいろなことに使われてはいるのだが、はつきりした説明が難しいのだ。そのうえ、数学を専門にしていると大抵の場合、論文を書くことになるのは修士の二年になつてからである。これは決して怠けているからではなく、数学というはるか昔から存在する学問の最先端にたどり着こうとすると学部の四年間では足りないからである。ゆえに、多くの理系の学生が就職するであろう時期になつても自分の研究分野についての学習が終結しておらず、それ故に説明するのが難しくなるのである。また、個人的には、たとえ知識があつても、そもそも数学という学問 자체が非常に抽象度の高いので、専門的に学んでない人に説明するのは困難なものでは無いかと思う。特に、数学理論の一つである圈論のようなもの

は伝えようがあるのか不思議に思う。ここまで、学習内容がまだ途中であるがために説明をすることが難しいということを書いてきた

が、直接ではさらに、研究内容がどのように社会に役に立つかなどと聞かれることが多く、前にも述べたようにこちらも非常に難しい。(そもそもこの質問 자체が数学界隈ではタブーなような気もする)応用数学と言われるような分野は応用といわれるくらいなので何かに役立つことがあるかもしれない。しかし、純粹数学を専門にしている人たちは数学のために数学やっているようなものであり、研究のモチベーションが世の中の役立たないことが多い。私の専門にしている人たちは数学のために数学やっているようなものであり、研究で世の中の役に立つ場面は多い方だと思うが、数学の中には応用先が分からぬるものが多くある。もしかしたら、遠い未来では重要な理論になつているかもしれないが、それは五〇年後かもしれないし一〇〇年後かもしれない。それは今を生きている私たちには分かるはずもない。実際、一九七〇年代に素数の知識を用いて発明された暗号が私達の通信の安全性に役立つているが、素数自身は古代ギリシア人などが紀元前から研究している。さすがにあのユークリッドも自分の研究していたものが二〇〇〇年以上経つてから、世の中の生活に欠かせない技術に応用されているとは想像もつかなかつただろう。以上から数学の研究をしている人にその人の研究分野が今、役に立つか聞くことが無意味なことであるということが少しでも伝わっていると幸いである。(ここまでつらつらと愚痴を書いてきたが、こんなことを言つっていてもこれこそ無意味なので、愚痴は辞めて真

剣に就活対策をしようと思う。

ここからは、最近やつたことについて書いていこうと思う。コロナウイルスの影響で外に出ることができなかっため、オンライン授業とゼミの繰り返しなので、最近やつたことというと基本的にそのどちらかになる。大学院で情報系に所属を変えたということもあって、それらしい授業をとつてみようと思い、情報セキュリティの授業をとつてみた。今まであまり触れてこなかつた分野なので、慣れないことも多かつたが、新鮮なことだらけで楽しかった。簡単なものではあるが、実際に脆弱性のあるページを作つて、SQLインジェクションや XSS（クロスサイトスクリプティング）を行つてみたのだが、データを抜かれる挙動を見るのは面白かつた。一方、ゼミでは、曲線や曲面に現れる特異点について学習した。四回生の頃は微分幾何の研究室でも、特異点の研究室でもなかつたので、大学院から始めた内容にはなる。特異点は特異というだけあつて振る舞いが特殊であり厄介なのだが、微分幾何学においては特に触れたくない対象である。私の研究室はあえてそれに触れていくこうというスタンスなので私も同様にするのだが、触れたくない対象というだけあつてやめんどくさい部分が少なくない。その一端を四ヶ月程度ではあるが体験できた。これから細かくどういう方向で研究していくのか決めなくてはならないのだが、前半で書いたような就職に向けての事情もあるので、非常に悩ましく思つていて次第である。しかし、悩んでいる間にも時は確実に流れしていく。コロナの関係で通学はできて

いなくても大学院生活の四分の一が終わってしまった。そろそろ就職に向けて活動していかなくてはならない。後悔のない大学院生活、そして就職活動をしたいと思う。



### コロナ就活を終えて

立教大学 法学部国際ビジネス法学科 四年

浜桐 勇輝

私は今年コロナ就活なるものを経験した。例年の春から夏にかけての時期は、街ではスーツ姿の就活生がスマートフォンや手帳をどこか緊張走った表情でのぞき込んでいる光景を誰でも目にしているのではないか。そう、例年では。今年の春頃からコロナウイルスが猛威を振るい、多くの人の生活様式を変化させていく。この原稿を書いている今もまだコロナウイルスが収束する気配を感じない。もちろん就活生にとつても影響が出ていると強く感じる。コロナ禍は就活生にどのような影響を与えたのか、そのリアルな感想を述べていく。

就職活動は単に面接を受けて合格すれば内定をもらえるというシンプルなゲームではなく、そのなかでどのように努力をし、少しでも内定の確率を上げていくかという緻密なゲームであると強く感じた。確かに面接を受けて合格すれば内定をもらえるということに間違いはないが、企業が求める人材は各々企業によって違いがある。例えばベンチャーアイデアを有する人材と伝統のある大企業を比べてみて欲しい。ベンチャーアイデアを有する人材では、大まかに言うと新しいことにチャレンジする意欲があるか、世の中の動きを敏感に感じ取れるか等を意識して企業は採用活動をするだろう。一方、伝統のある大企業では、まずは指示通りに与えられる仕事を着実にこなしていく

けるか、会社の一員として多くの人とうまく関わりあえるか等が求められるだろう。この例はざっくりとした個人の見解ではあるが、実際に就職活動を通して感じたことだ。それぞれの会社が欲しいと思える人材は違うと、就職活動を経験したことがない人にとっても分かるのではないだろうか。では面接でどのようなことを話せば内定がもらえるのか。チャレンジ精神が求められるベンチャー気質の会社では、今までの人生のなかで何かに挑戦したというエピソードを引っ張り出し、そのときにどういう思いで取り組んだか等を話したほうが採用する人間にとっては興味深いエピソードになるし、会社に入つてからも辞めずに新しいことにチャレンジし続ける人間になるという展望も見えやすく、採用したくなる人材に見える。一方、伝統のある大企業では多くの人と関わり合い目標を達成したというエピソードを話せば、同じく採用する側からしてみれば活躍するイメージがつきやすい。例としてベンチャー企業と大企業を引き合いに出したが、同じ業界であったとしても企業ごとに求める人材が違うのだ。このようなことを鑑みると、就職活動とは単なる面接ゲームではないことが分かるだろう。

就職活動の難しさについて触れたうえで、実際に今年の就職活動はどのように行われたのか、またどのような対策をしたのかを述べていく。例年の就職活動では誰もが思い描く通り、会社説明会から面接に至るまで就活生は実際に企業に出向いて社員の方と対面で会話をを行う。ただ、今年ではコロナ感染を防ぐために多くの企業がウェブを通じて会社説明会や面接を行う。もちろん全ての企業がウ

ェブを使っているわけではないが、基本的にはウェブを通じて行うので就活生としては交通費が節約できることや時間が効率的に使えることからメリットが多いように感じる。実際にこのようなメリットは感じたものの、ウェブでは社員の方や会社の雰囲気を肌で感じ取ることはできない。特に私の場合はこの業界に行きたい、こんな事業がやってみたいという就職活動の軸が明確になつておらず、一緒に働きたいと思えるような人がいるかどうかなど直感や雰囲気で思えるような会社に行きたいと思っていたので、実際に会社に行くことができないということに関してデメリットであると感じた。面接では基本的には一次面接、二次面接など最終面接でない限りウェブを通じて行われた。いくらコロナ対策とは言つても最終面接ぐらいは面接官としても就活生としても実際に会つてその人の雰囲気を感じ取りたいという意味で最終面接だけは対面で面接が行われたのだろう。このような選考フローをこなさなければならなくなり、戸惑つたのは就活生だけではなく面接官も同様に難しさを感じたのではなかろうか。私が特にウェブ面接で難しさを感じた点は電波の問題だ。日頃当たり前のようにワイファイを使っている現代人のひとりではあるので扱えるのは当たり前と思われがちだが、ウェブ面接の最中にハウリングや画面が止まるということも意外と多かった。正直そうなってしまえば対応の仕方も分からぬし、ウェブ面接の中で音声が途切れてしまい、すぐに会社に連絡したものの返信が返つてこず結果的に面接が不合格になつてしまつたこともある。このような問題は例年であれば確実にないケースではあるので、その点

はかなりのデメリットであると感じた。ちなみに私が入社予定の企業の最終面接では、対面で行う予定だったものの、面接当日に会社の入っているビルでコロナ感染の疑いがある人が出てしまい、最終的に日を改めウェブで行うことになつたのだ。このときにコロナウイルスの脅威を、身を以て感じたのを覚えている。このように例年と違う就職活動を行ううえで私が行つた対策としては、ウェブ面接に関しては、手順もよく分からなかつたため、友達とオンライン飲みをしてみるなどウェブを通じて人と話す経験を少しでも増やすようとした。面接の予行練習という口実で飲み過ぎてしまつたこともあつたが。その他では、社員の人や会社の雰囲気を肌で感じ取ることができることに関しては、とにかくインターネットやサークルの先輩など色々な人から情報を受け取り、会社を知る努力を行つた。これは今年に限つて重要というわけではないが、特に今年は自分で情報をつかみ取りに行くことがとても重要であつたようだ。以上が感じた。以上のようにウェブを使った就職活動はメリットもありデメリットもあるという面で、人によつて感じ方は違つてくるだろう。

コロナ就活を経験してみて、様々な力が求められていると私は感じた。ウェブを通じた就職活動というものは今までなかなか見られなかつただけで、実際に経験してみるとなぜ今までなかつたのだろうと思えるほど自然に行われたように感じた。このコロナウイルスがきっかけとなりこれからは今以上にウェブで様々な事が行われるだろう。ウェブを使うことで人に会いに行くという時間が節約され、働き方改革の取り組みとして様々な会社が取り入れたりもし

ている。そこで重要な力は2つあると感じている。1つ目はウェブをうまく使うこと。これはおそらく多くの若者は気をつけなくともかしたら今以上にウェブに対する知識をつけなくては対応できない時代も来るかもしれない。そのときのためにウェブ、インターネットを安全に使い、効率的に仕事や勉強をするツールと考え扱える力が必要であると考える。2つ目は伝える力だ。人と会話をするうえで実際に会つて会話をしたほうがもちろん自分が考えていることが伝えやすいだろう。ただ、ウェブ面接を経験して、面接官に対しても自分の考えを伝えるために、身振り手振りをいつも以上に私は使つていた。これは自分の考えが言葉としてなかなか出てこなかつたときには自然と使つていたが、画面の奥にいる面接官にいかに自分の考えを伝えるか、これが一番重要であると感じた。よつて今後もウェブを通じて仕事や授業が行われる機会が増えていくと思うので、自分の気持ちをどんな場面であつても伝えられる力が求められていると感じた。

最後に、先輩風を吹かし、後輩に向けて就職活動のアドバイスをしておく。就職活動に関する様々な記事を見ても、来年の就職活動は今年以上にきつくなると予想されている。ただ、きつくなるかもしれないからといって奇を衒つた行動はしなくても良い。志望する企業に入るためには何よりも力を第一に考え努力することが一番の近道だと考える。例えば、筆記試験で良い成績を残すために勉強する。自分を知るために自己分析を行う。面接を突破するため

に面接の練習をする。序盤では就職活動は緻密なゲームと言つたが、もし就職活動で立ち止まつてしまつたらシンプルに考えてみると気持ちが楽になるだろう。そしてたまには友達とお酒でも酌み交わし悩みを打ち明けてもいい。後輩達から良い結果が聞けることを願い、最後とさせていただく。

### これから求められるまちづくり

日本大学 理工学部まちづくり工学科 四年 山根 隆真

舍誌を書くのも今年で最後の年となつた。毎年の夏、この舍誌の内容で頭を悩ませていたが、今年はその集大成ということ今までで一番悩んだが、やはり最後は大学で学んできたことまちづくりをテーマとし綴らうと思う。なぜ、大学で学んできたことテーマとしたかというと、現在新型コロナウイルスが猛威を振るう中で、様々な生活様式が求められるようになつてきた。その生活様式とはまちづくりの考えをかなり変えるようなものであり、この先に求められるwithコロナの時代に、私が大学四年間学んできたことは通用するのか、活用することができるのか等といくつかの疑問が浮かんできたからである。その考えをこの舍誌という場を借りて述べていきた

いと思う。

皆さんは「まちづくり」の意味をどのように捉えているだろうか。字の通りに捉える方が殆どであると思う。確かに間違つてはないが、まちづくりの中にも分野ごとに都市計画、観光、景観、福祉、土木、建築等の分野に分かれしており、これらの観点からのまちづくりもあるということを知つて頂きたいと思う。また、「まちづくり」とはただ単にまちづくりを行うのではなく、現在日本が抱えている社会問題やその地域の課題解決・地域活性化のために「まちづくり」を行なうということも知つて頂きたい。皆さんの身近な「まちづくり」の事例であろうと考えられるのが「観光まちづくり」であると思う。

その地域の観光名所や特産品等の観光資源を活用して地域の活性化を図ろうとするまちづくりである。地元である岩国市を例にすれば、錦帯橋や岩国れんこんを活用し、岩国市を活性化・発展させていくうというのが「観光まちづくり」に該当する。「観光まちづくり」に関しては全国津々浦々様々な観光資源を持った地域があるため、その特徴・特色は多種多様である。

この「まちづくり工学」という分野を大学で学び始めた当初は「まちづくり」の重要性・ニーズや役割、求められているもの等々一つも理解できず、ただ授業を受けるだけであつたが、より専門的な授業を受けるにつれて「まちづくり」の面白さ、興味深さ、そしてその重要性というものを理解した。元々、私は建築士になりたいという将来の夢を抱き、建築士の資格も取得することができるまちづくり工学科に進学したが、この「まちづくり」の興味深さを知つてか

ら建築士よりもまちづくりに精通する職業の方がやりがいを感じ、かつ様々な社会問題を抱える日本の現状を変えていくのではないかと感じた。社会問題等だけではなく他国よりも幸福度が著しく低い現状もより良い「まちづくり」を目指していく過程や結果によつて上昇していくのではないかとも考える。

また、「まちづくり工学」に関して基礎科目から専門科目を履修したことで「まちづくり工学科」として何を基本として「まちづくり」を行うのか、何が重要なのかというものが見えてきた。それは「住民」「行政」「国」この三者が主体となつてまちを作り上げていくということである。これを実現させるためには、三者主体のワーケシヨップやミーティングが重要となつてくる。これらには必然的に直接会つて行うことが要求される。それにより様々な情報を共有でき、住民の自分たちが住むまちの理想やビジョンを三者交えて熱く語り合うことでまちを作り上げていくことができると習い、自らも野外授業でワークシヨップを実際に行つた経験があるのでそのように感じる。しかし、今年から新型コロナウイルスの影響で私たち自身の生活を取り巻くほぼすべての環境は変化した。不要不急の外出を控える、三密を避ける等といった人ととの関わりを自粛、遮断するような状況下になりつつある。そのような状況下で果たして前述したような「まちづくり」が行えるのであろうかという「まちづくり」を行う上で必要となる根本的な過程を否定するような状況であると私は感じている。確かに、技術の発展によりリモート等で議論できる場を設ける、感染対策をしっかりと行う等といった方法で行えれば

よいという意見が表れそ�であるが、果たして画面上越しに自分の住んでいる「まち」を変えたいという熱意はしっかりと伝わるのかという懸念点が必ず発生し、計画の段階で躊躇してしまい、理想の「まち」への実現が遠のいてしまうと考える。

では、どのようにすればコロナ禍においても理想とする「まちづくり」を行えるのだろうか。それは人と人との「扉」を失くすことであると考える。突然何を言い出すのかと思われたかもしれないが、実際に述べると、初対面の人同士が接する時、誰しもが常に感じるであろう「扉」、つまり境界線のようなものを失くしていくことができるかどうかであると考へる。この境界線をいかに早期に失くし、割り入つて話を進めることができるかどうかであるとも考えている。これはコロナ禍前でも重要なことであるが、コロナ禍だからこそさらに重要なと考へる。これは「まちづくり」の計画の手助けとなるだけでなく、「まち」が完成したあとの住民同士の関係性にも有効的であると考へる。人と会うというのを控えなければならない状況を迎えている中で、「住民」同士の関係性が希薄になつてしまつたら、「まちづくり」が根本的に行えなくなり、衰退していくのみになつてしまふ。「まち」の衰退は日本の衰退に繋がると考へているため、どんな状況下でも人と人との繋がりというのは失くしてはならず、繋がりを作るための「扉」はできるだけ失す方が良いと感じた。これがこれからの「まちづくり」に必要で、求められるものであると思ふ。

最後に、最後の舍誌ともなると何かを残したいという思いがあり、

中々文章・言葉が出てこず、提出までにとても時間がかかつてしまつた。この場をお借りして担当者の舍生には感謝を伝えたいと思う。

本当にありがとうございました。また、最後の舍誌ということで色々

書かせていただいたが、正直自分が本当に述べたかったことをきちんと読んでくださる方々に伝えられているかどうかもわからず、不安ではあるが、自身の意見や考えを述べる機会というのは滅多にくく、また同郷ではあるが歳の違う先輩・後輩の考え方を読むことができる経験などこれもまた滅多にないと思う。毎年悩まされてきた舍誌であったが、今となればとてもいい経験であったと思う。手元に舍誌が届くのを楽しみにしたいと思う。



## 雑記

慶應義塾大学 薬学部薬学科 四年

村中 慶太

これを書いている日は提出期限間近、というか提出期限日の朝なのですが、書くネタを何にしようか決めあぐねた結果、雑記という雑なティストにしました。僕は文章を書くことも好きなので、このような機会は嬉しいのですが、やはり内容の軸を決めた方が早く書き上がるるので今回は苦戦しています。如何せん書きづらい。

思えば、僕が一年の頃は「東京の様子」などを書いて、二年では「蒲田のラーメン屋」について、三年は「受験とは」みたいな内容で書いた覚えがあります。非常に懐かしいです。良い機会なので個々の話について、今の視点から振り返つていこうと思います。

一年の頃の「東京の話」ですが、やはり美しくもあり汚くもあると思います。不思議なもので、元々はただの平たい野原であつたのに、今では大規模な光の発生源となつてしまつています。その眩さ、眩しさに取り憑かれ上京した一人に僕がいますが、改めてここには夜の暗さはありません。むしろ、夜を昼に変えようとした結果であるとも言えます。もはや人間の手を離れてしまつたその天空城は、曲線で構成されていません。全てが直線で構成され、規則正しさを好み、例外を弾くような気がします。しかし、好ましい面は非常に直感的に理解しやすい構造であり、シンプルであることです。また、日本は東京を中心にしていると錯覚を生ませ、過剰な選民意識を根

付かせていることもある方たちにとつては好ましいでしよう。しかし、過剰な緊張を助長させていることも事実です。眠らない街とはよく言つたものです。眠りたい人にとっては、煩い疲れた街に等しく、まるで夜も眠らないことが正しくも見えるような。全く、ただの街がここまで進化していることには驚くあまりです。言葉では表せきませんが、この貴重な時代を東京で過ごせたことは僕を形作る経験となっています。悲しい哉、良くも悪くも。

二年の頃の「蒲田のラーメン屋」ですが、とてもおいしいので足繁く通っていたのですが、このコロナを受けてか先日看板がなくなっていることに気づき、残念さを感じました。非常に僕の舌に合っていたので残念ですが、時はやさ・栄枯盛衰を感じずに入れませんでした。気づけば僕も二十二歳、時の流れの早さを痛感します。思うに最近時が早いと感じる時は、「一点間の時間感覚」を引き算しているものだと考えています。例えば、前集まつたのが二月だからそれからもう六ヶ月経つたね、などと言つた今と昔の基準となるインベントを比べ、脳と誤差があることを認識しているからだと考えます。話を元に戻しますが、僕は「栄枯盛衰」という感覚を強く持っています。この栄枯盛衰に因み、琵琶法師の「単に風の前の塵に同じ」というフレーズがありますが、これこそ日本人の風土に合わせた意識感覚だと認識しています。つまり、栄えるものは廃れ、無くなつてしまえばとるに足りないということです。僕が思うのは、このラーメン屋も無くなつてしまえばとるに足らないものといったことです。不变のものなどない、ということでしょうか。例年當ま

れてきた生活が、今年ではそうはいかない、瓦解しているということのはまさしく不变なものなどないということでしょうか。いずれにせよ、ラーメンは「硬め濃いめ多め」です。なんだか、書いているうちにラーメンが食べたくなってきました。

三年の頃の「受験」の話ですが、これは結局全員大学に合格でき、今ではうちの塾で「先生」として働いてもらっています。ありがたい話で、誰も彼も優秀であり、僕なんかより生徒への接し方が上手い方ばかりです。今まさに、彼らも彼らのステージを手繕り寄せていつているようで、こちらも見ていて微笑ましいです。僕は、最初こそ「先生」と呼ばれる器ではなかつたものの、先に生まれてきたものの宿命として後輩を教え導くことも必要と理解し、そこからは一応先に生まれてきたものとして頑張っています。とりわけ、僕自身教える科目が複数にわたり大変な時もありますが、後身育成に力を入れています。

さて、振り返つてみましたが、来年もここにいるかどうかわからぬ状況なので、総括をしたい気分です。僕も大きく変わりました。なんだかんだ言つて、若干思い描いた大学生活と異なつていたものの、ある程度楽しめたかなという気分です。いわゆる「典型的大学生活」と異なつて、大学でサークル活動に勤しみ、友人と休日は遊び、夜まで友達の家でお酒を飲むみたいな生活はできませんでした笑。そんな生活もしてみたかったですが、僕の生活は、バイトと大学の往復、たまにお酒を飲むみたいな生活でした。キツかつたですが、努力は誰にも見せたくないでのこれでいいかなと思つています。し

かし、今はほぼ毎日飲酒しています、バイトも沢合つてあまり行われていないためです。また、音楽の趣味もだいぶ変化しました。Apple Musicに加入了からでしようか。食の嗜好はあまり変化していません、基本的に辛いものが好きです。あとは、今に至るまで家の中でゴキブリが一匹も出でていないことを伝えておきます。と書いたら、翌日に出てそうですが。塾で教えている故か、高校生、中学生と当時の私を重ねてみるのでですが、自身の価値観が変化したことを知ります。と同時に、成長してしまった自分を虚しく思うこともあります。もう昔のような、青々しい気分には戻れないのだと、しかし誰しもこの感情を犠牲にして大人になつて行くのだと。僕ももうそんな歳です。今でも思い出すのは、一年の頃、日吉のキャンパスでの屋上の風景です。あの時、見ていた風景はフレッシュでしたが、今となつては懐かしいものとなつてしましました。それ違った人々は、今どんな生活をしているのだろうか。元気にやつっているでしょうか。そのようななんでもない時間が、実はかけがえのないものだと思つています。

まあ、ここまでつらつらと書いてきましたが、最近のことでも書いておこうと思っています。最近は述べた通り、飲酒しています。サツポロビールの黒ラベルが好きなのですが、金銭面を考えた結果淡麗も飲んでいます。また、レモンサワーも好きです。最近は檸檬堂という美味しいレモンサワーが発売されたのでこれをよく飲んでいます。それ以外には、外出もままならない状況なので家でYouTubeを見たり、音楽を聞いたりしてのんびりしています。これを書いて

いる時もYouTubeを見ながら書いています。しかし、夏休みがコロナのせいで短くなってしまったので悲しいです。本当に短くなりすぎたので夏休みというより、お盆の延長ではないかと思っています。今、僕が一年の頃の舍誌を振り返つてみましたが、懐かしい記憶です。どれもが本当に懐かしいです。本当に良い経験を積めたと考えています。ありがとうございました。

### 新型コロナウイルスの影響

青山学院大学 法学部法学科 四年  
大橋 巧

新型コロナウイル感染症は、新型コロナウイルスである“SARS-CoV2”による感染症のことです。WHOはこのウイルスによる感染症のことを“COVID-19”と名付けました。2019年12月以降、中国湖北省武漢市を中心に発生し、短期間で全世界に広がりました。どのような経緯で SARS-CoV2 が生み出されたのか、またヒトに感染するようになったのかは、いまだに不明です。しかし、中国武漢市の海鮮売場に関連した人で集団発生したことや、後に野生動物の取引エリアからもウイルスが検知されたことから、そこに何らかの原因が潜んでいるとも考えられています。一部にはウイルス研究所な

どで人為的に作成されたウイルスであるとの懷疑的な意見もありますが、WHOはその見解を否定し、野生動物が起原である可能性が高いと表明しています。

また、新型コロナウイルスは、平均的な感染者よりも著しく多くの人々に感染を広げる“スーパースプレッダー”が爆発的な感染拡大に影響していると考えられており、国内でも特定の集団や利用施設、医療機関から多数の感染者が発生しています。

コロナウイルスは、ヒトを含めた哺乳類、鳥類などに広く存在するウイルスです。コロナウイルスの特徴として、エンベロープ（ウイルス表面の脂質性の膜）上にコロナ（王冠）のようなたんぱく質の突起を持ったことが挙げられます。これを名前の由来とする1本鎖のRNAウイルスです。ウイルスにはエンベロープを持つものと持たないものがありますが、コロナウイルスを含めエンベロープを持つウイルスはアルコールで失活する、変異を起こしやすいという特徴があります。

コロナウイルスは、一般的な風邪をひき起こすウイルスでもあります。上記のように変異を起こしたり、動物界のウイルスがヒトに感染したりして重大な被害を与えることがあります。なお、2002年に中国広東省から発生したSARS、2012年に中東地域を中心に発生したMERSなどもコロナウイルスの一種です。

現在でも、ワクチンも開発されていないため、これから世界はどうなっていくのか、みどころです。

今年が大学生活最後の私にとって、最悪の年でした。人生の夏休

みとも言われている大学生活、なおかつ大学の授業、就活が終わってしまいました。また、今年就活を経験しましたが、前例のない年だつたため、苦労しました。会社説明会は全てがオンラインであり、面接もほとんどがウェブでの面接でした。画面越しだと時間のラグや、通信状況の悪化によってのトラブル等もありました。そのため、例年と同じような対策等では上手くいきませんでした。また、夏などにインターネットに参加していた人達は、早期ルートのようなものについていたなどの情報も実際に聞きました。何においても早く取り組み、準備の大切さを思はされた就活でした。

実際に、今年はリーマンショックの時のような、就職氷河期だったのかについて調べてみました。

リクルートが八月六日に発表した二〇二一年卒の大学生・大学院生を対象とした新卒の求人倍率（求人総数÷民間企業の就職希望者数）を見てみました。求人倍率とは求職者一人に対しても何件の求人があるかを示す数値で、一倍以上ならば求職者一人に対して一件以上の求人がある（＝職が見つけやすい）ことを示し、一倍未満ならば求職者一人に対して求人が一件未満である（＝職が見つけにくい）ことを示します。まず全体の求人総数は、前年の八十万四千七百人から十二万三千人減少し六十八万三千人となりました。企業の採用意欲が減退していることがあらためて明らかになりました。一方、就職希望者数は前年比七千六百人増の四十四万七千百人となり、そ

の結果、全体の求人倍率は1.53倍と、前年の1.83倍から0.3ポイント低下しました。数字は確かに低下しています。就活生からすれば、就職氷河期の再来か、と不安になるが、リーマンショック後の二〇一一～二〇一四年当時、求人倍率が1.2倍台程度で推移していたのと比べると、決して低い水準とはいえません。さらに就職氷河期の真っただ中だった二〇〇〇年の求人倍率が0.99倍だったことを考えると、高水準とさえいうことができます。

コロナ禍で確かに企業の採用意欲は減退しているが、一足飛びに就職氷河期になるとは考えにくいと思われます。バブル崩壊後の一九九〇年代後半～二〇〇〇年代前半まで採用を極端に抑えた結果、会社の中核を担うべき四十歳前後の人才が極端に薄くなっていることが大きな経営リスクとなっています。企業としてはこうした反省から、一定数の新卒採用は継続するとみられます。

このように、リーマンショックの時ほど影響は受けていないように思われます。また、この影響からか、大企業を受けるのではなく、中小企業を受ける学生が増えたと言うことが分かりました。従業員三百人未満の企業でも求人総数は前年比六万六千七百人減つており、全体の傾向と変わりません。しかし就職希望者数は前年比六万三百人も増えている事が分かります。その結果、従業員三百人未満の企業の求人倍率は、前年の8.62倍から3.40倍へと大きく低下しています。コロナ禍で「確実に内定を確保したい」と考える学生が増えていることの表れのように思いました。

一方、従業員五千人以上の大企業では、求人総数が前年比八千二

百人減少したが就職希望者数も五万九百人減少しており、求人倍率は前年の0.42倍から0.60倍に上昇しました。ここからも、学生が狭き門である大企業を避け、中小企業にシフトしている様子がうかがえます。

このように、WITHコロナは企業が生き延びていくために多くの策を取ることと同様に、就活生も多くのこと試し、実行する行動力が必要になつて来るのではないかと思いました。

就活で決まるファーストキャリアは重要だと思います。しかし、

今の時代は変化も多い時代であるため、大企業でも安心はできないと思いました。これから社会に出るにあたつて、目標を持ち、常に前進し続けたいと思いました。新型コロナ下では一人一人の努力次第で未来は変わると思うので、時間を作りたいと思いました。

意外と新型コロナが私たちに教えてくれることは大きいのではなかと感じた最近でした。



お盆も終わり、明朝には東京へ帰らねばならない。あと五日もすればインターが始まってしまう。嫌なものだ、まだゆっくりしてみたい。早く帰つて自宅で英気を養おうか。だめだ、就活という現実を突きつけてくる情報が多すぎる。とはいって、ギリギリまで実家という「ゆりかご」の中でぬくぬくと何もせずに過ごすのも如何なものか。せつかくなら普段できないことでもしたい。そうだ、3日間もあるし、旅に出よう。どこへ行こうか。そういえば、青春18切符で旅をしてみたかった。行ったことのない場所を東京に戻るまでの道のりで回れば面白そうだ。せつかくなら、いつも通る東海道ではない別のルートを使って行こう。そんなふとした思いつきから、私の遠回りの旅は始まった。

翌朝6時、岩国駅を出発した。もちろん普段とは違う、新山口方面に向けてだ。水平線から朝日が昇り、眩しい光が車窓に差し込んできた。このような景色を朝から堪能できて、久しぶりに早起きした甲斐があったものだ。海沿いの自然の風景と時折現れる街並み眺めていると、新山口駅に着いた。近くのコンビニで朝食を調達して、久しぶりに訪れる街を少し散策した。駅前のホテル、駅から少し離れたショッピングモール、いずれも以前と変わらず、高校時代の大會、自動車免許試験での家族の思い出が鮮やかに蘇ってきた。回想

しているうちに、目的の電車が駆けやつてきた。今度は山を越え山陰へと進む。山口の街並みを抜け、緑豊かな風景が続く。都会にはない自然を眺めていると、心地よくなつた。気分の良さと早起きの疲れが相まって、気づけばうとうと眠つていた。途中で降りるプレッシャーや人影を彷彿とさせる街並みから離れ、その眠りは開放的で充実していた。眠りから覚めると、人里が見え、程なくして終点の益田に着いた。気づけばもう正午だ。いつも心の片隅にある、何もできなかつた午前中の罪悪感はない。そんな清々しい思いで、近くの喫茶店で昼食をとつた。コーヒーを片手に店内の音楽、人の声に耳を傾ける。人々はみな何者にも追われることなく活き活きと過ごした。気づけば私も、仕事の忙しさや生活の憂鬱さはなくなり、ゆつたりと流れるこの場を構成していた。約束の時間がやつてきてそこからは、しばらく日本海を右手に東へ進む。瀬戸の内海とは違う荒々しさが車窓から感じられた。ふと奥まで見通しても、島影は見えない。晴れているのに全く見えない。内海とは違う本物の海、その広さでも感じ取れた。進むにつれ、陽も落ちてくる。雄大な海もその景色を変えていく。夕暮れ時のオレンジ色に染まる海は特に美しかつた。これほどまでに夕暮れを素晴らしい感じたのは初めてかもしれない。子供の頃は、夕暮れは友人と遊びを象徴していた。成人してからも行動に移せなかつた遺る瀬無さを感じる物寂しい時間と思われた。普段とは異なる環境で見るからこそ新たな一面を見出せる、それが旅の醍醐味なのかもしれない。そんなことを感慨深く思いな

がら、旅を続けた。海を見ながら進んだ旅も、今日は鳥取で終わる。

二日目。朝早く鳥取砂丘を歩いていた。足を取られそうでサンダルに砂が入りながらも足を進めた。苦戦しながらもなんとか海岸までたどり着く。朝日が見えてきた。これが見たかった。早起きして屋外で独り占めできるこの景色は素晴らしく、太陽の光とともに活力をくれた。この調子で普段の生活も送ることができたらと思いつつ、旅へと戻ることにした。

朝9:30、この街をあとにして列車に乗り込んだ。相変わらず、日本海に沿って列車は進む。途中、ネットで見かけた、「餘部鉄橋」を進む。これまでのローカル感と打って変わり、都市的なデザインから、都会的な雰囲気が感じられた。さらに進んでいき、途中の城崎温泉で降りることにした。志賀直哉の「城の崎にて」を読んでから訪れてみたく思っていた土地だ。名物の温泉に浸かった後、涼を感じるために、川辺を散歩することにした。こう歩いていると、かつて読んだ小説の一節を思い出す。ある種の「聖地巡礼」だろう。そんな風に作品に思いを馳せつつ、海とは違う川のせせらぎを堪能した。1時間30分という短い時間ではあつたが、心と体を休めるにはこれほど時間がちょうど良いと感じられる。長すぎてもだらだらと過ごし、短すぎてもせかせか動き落ち着かない。程よい速さで過ごすのが焦らず過ごすコツなのかもしれない。英気と自分のペースを掴めたところで次の電車に乗り込んだ。海に別れを告げ山道へと向かう。例のように山道に気を取られていると、福知山、乗り換えて、京都へとたどり着いた。京都は相変わらずの人通りだ。海外からの観光

客で賑わっている。これまで都心部の喧騒から離れていた分、余計に感じられた。そして、久しぶりの都会、一年越しに訪れる土地とすることもあり、哀愁も感じられた。立ち寄りたい気持ちもあった。

しかし、自分にとっては、この土地はこの旅のように、一つの領域として歩み続け巡るのがよく感じられた。それに今回の旅のコンセ

プトは、行つたことのない場所を巡ることにある。次までの電車があるのなら、未踏の土地へと進むのが良いだろう。そう思われ、早速先へと進むことにした。新幹線と並行して東海道線を進む。帰省の時は颯爽と駆け抜けていく土地も、ゆっくりと進む電車では、街並みや自然、一つ一つの景色がよりはつきりと見えてくる。景色に加え、乗客など車内の雰囲気が、沿線の住民の生活の足だと実感させてくれた。そして、会社員、学生、家族連れなど彼らの生活一つ一つといったものが連想された。何気なく通り過ぎる瞬間の中にも、日常、ふと落ち着くような時間が存在している。文字通り「忙殺」されぬよう、ゆとりを持つ心を忘れずにいたいものだ。非日常に日常を見出す自分に自惚れていると、名古屋の都心部の明かりが見えてきた。今日は、ここで旅を終えて、名古屋めしを堪能することにした。何から食べよう。地下街には店が多く立ち並ぶ。迷いから、スマホの検索の指の動きにも拍車がかかる。自分の頭を総動員して

今日食べたいものを必死に考える。今年はまだうなぎにありつけないこと、少しこつてりとしたものも食べたい。そう考え、王道のひつまぶし、みそかつをいただく。名物全てを食べられない悔しさ、多額の出費をしている罪悪感は店に入り、配膳されると一気に

消えた。外食でこれほど充足感を覚えるのは、人のお金で焼肉を食べるべきとき以来であった。自分で出費してよかつた、と思える食事は初めてなのかもしれない。さらに欲を出し、手羽先を持ち帰り、コンビニでビールを買い、宿泊先でいただいた。何ものにも追われる事なく晩酌をする。岩国を出てからの思い出に浸る。普段は一日を振り返ることは少ない。あってもいいものとして捉えられない。でも今は違う。夢中になつてあらゆる土地を巡っている。これが自分で時間を握る感覚なのだろうか。単なるリラックス以上に感じる満足感、活力は、この感覚ゆえに起ころのかなと思われた。そんな風に思つていると瞼を閉じ私は眠つていた。

次の日、差し込んでくる朝日で目が覚めた。この二日で早起きに少し慣れてきたのだろう、気持ちよい目覚めであった。さて、モーニングをいただきに行こうか。駅近くの喫茶店で、少しずつ動き始める街を眺めながら、小倉トーストとコーヒーをいただいた。この街には益田の町とは違う慌ただしい雰囲気がある。しかし、一度喫茶店に入ると、落ち着いた時間が流れてくる。ここに入ると、焦りも忘れ自分なりのペースを取り戻すことができる。私にとつて、喫茶店という場所は、「オアシス」というありきたりな表現よりも、落ち着きを取り戻せる「自然」が意味合いに近いのかもしれない。食事とコーヒーで燃料を入れて、私は外へ出た。そして、中央本線の列車に乗り込んだ。都会からどんどん離れ、山道を東に抜けていく。

先に行く楽しさの一方で、首都圏という現実に近づく一種の恐れも現れてくる。いつのこと途中下車した場所に永住しようか。そんなことも考え、列車を待つついでに、途中下車先で思い出ばかり振り返つてしまつていた。列車をもう一本遅らせようか。止まるたびそんなことも感じた。だが、止まつても何も始まらない。思い出を持って先に進む方が動機付けになるだろう。山道を休止と歩みを繰り返しつつ東へ進んだ。進み続け、都会の光が見えてくる。大都会東京が見えてきた。明日からまた普通の生活が始まる。寂しいような悲しいような気持ちがこみ上げてくる。新幹線で新横浜を出发した時のような感覚だ。でも、このままではいつもと同じだ。普段の思いを変えるために、普通の生活を変えてみせよう。三日間の思い出が自分の願望に裏付けされたものだからこそ自信を持つてそう思えた。英雄の帰還のように胸を張つて新宿に降り立つ。俺はやつてやる、興奮した思いを持ち、家路につく。靴を綺麗に脱ぎ、荷物を綺麗に片付け、シャワーと歯磨きを済ませた。そして、明かりを消し床についた。薄れゆく意識の中でも、熱い想いは消えそうになかった。目の前のことには本気になつてやる。現状を変えてやる……。

目を覚ました。今何時だ？　日付何日だっけ？　慌ただしく動きながら、スマホを見る。8:50 8月31日。お盆などどうの昔に終わっていた。旅など今は出来ない。徐々に現実を取り戻す。今はコロナウイルスが流行っている。八月ものんびり過ごして終わりに近づいている。さあどうしよう、慌てふためいている。どうやら、夢のよう

なことも考え、列車を待つついでに、途中下車先で思い出ばかり振り返つてしまつていた。列車をもう一本遅らせようか。止まるたびそんなことも感じた。だが、止まつても何も始まらない。思い出を持って先に進む方が動機付けになるだろう。山道を休止と歩みを繰り返しつつ東へ進んだ。進み続け、都会の光が見えてくる。大都會東京が見えてきた。明日からまた普通の生活が始まる。寂しいような悲しいような気持ちがこみ上げてくる。新幹線で新横浜を出发した時のような感覚だ。でも、このままではいつもと同じだ。普段の思いを変えるために、普通の生活を変えてみせよう。三日間の思い出が自分の願望に裏付けされたものだからこそ自信を持つてそう思えた。英雄の帰還のように胸を張つて新宿に降り立つ。俺はやつてやる、興奮した思いを持ち、家路につく。靴を綺麗に脱ぎ、荷物を綺麗に片付け、シャワーと歯磨きを済ませた。そして、明かりを消し床についた。薄れゆく意識の中でも、熱い想いは消えそうになかった。目の前のことには本気になつてやる。現状を変えてやる……。

にうまくはいかないようだ。そんなことを思った、朝のひとときである。

## チエルシーぐらい、楽しみは。

立教大学 社会学部現代文化学科 三年

松澤 優介



今年は新型コロナウイルスの影響で数多の大型ライブ、イベントが中止又は延期となっています。雑誌で感想を書こうと思つていた大型フェスも中止となりました。

春あたりから身体も心も動かない退屈でネガティブな生活を送っている私ですが、最近のチエルシー（イングランドのプロサッカーカラーズ）の積極補強が世界を、私を賑わしているのでそのことについて書きます。チエルシーしか勝たん。

チエルシーは昨年、十八歳未満の選手の海外移籍に関する FIFA（国際サッカー連盟）の規則に反したとして今年夏の移籍市場まで選手補強禁止処分を科されていました。結局、チエルシーはこの処分に異議を申し立て、それが認められたことで、今年冬の移籍市場からは選手補強が可能になったのですが、チエルシーは冬に選手補強を行いませんでした。フランク・ランパード監督体制一年目、順位こそ2位（欧州チャンピオンズ・リーグ）圏内を維持していたものの、下位チーム相手に勝ち点を取りこぼすことも多く、厳しい戦いを強いられていたにも関わらず、冬の移籍市場を爆速でスルーした時は絶望しました。

しかし、冬の移籍市場が終わつたシーズン途中、チエルシーはアヤツクス（オランダ）からMFハキム・ツイエク（モロッコ代表）、

RB ライプツィヒ（ドイツ）から FW テイモ・ヴェルナー（ドイツ代表）をそれぞれ獲得しました。ツイエク、ヴェルナー共にシェルシーが初めてのビッグクラブへの移籍だつたと思ひますが、ツイエクは昨年のCL でアヤツクスの快進撃を支えた功労者です。欧洲のビッグクラブ相手にもその技術が通用することは既に証明済。今年のCL でシェルシーがアヤツクスと対戦した時はツイエクに散々やられました。来てくれて本当にあざつす。ヴェルナーは今年のCL でこれまで快進撃のRB ライプツィヒの点取り屋です。私はあんまりヴェルナーのプレーを見たことがないのですが、スピードがすごいと聞いたような気がします。ヴェルナーはまだ24歳で、欧洲各国のビッグクラブが彼の獲得を狙っていたそうですが、シェルシーに来てくれて本当にあざつす。

今年のシェルシーは引いた相手を崩しきれず終わることが多かつたので、クリエイティブなツイエク、決定力の高いヴェルナーを獲得できたのは本当にデカいと思います。あとはこの二人が当たりが強く、スピードの速いイングランドのサッカーに早く慣れることができるかが鍵だと思います。

これがシーズン途中の「でき」ことです。この二人を獲得できただけでも素晴らしい選手補強なのですが、まだまだ終わらないのが今年のシェルシー。

レスター・シティ（イングランド）から DF ベン・チルウェル（イングランド代表）、パリ・サンジェルマン（フランス）から DF チアゴ・シウバ（ブラジル代表）、レヴァークーザゼン（ドイツ）から

MF カイ・ハヴェルツ（ドイツ代表）が獲得間近となっています。

チルウェルはシェルシーにとつて喉から手が出るほど欲しかった安定感ある左サイドバックの選手です。当初、チルウェル獲得のためには最低でも七千五百万ポンド（約百一億円）の移籍金が必要だとされていましたが、最新の報道だと移籍金五千万ポンド（約七十億円）で決着したと報じられています。フロント頑張りすぎでしょガチナイス。シウバは現在三十五歳の大ベテランで、パリ・サンジエルマンの主将を務めていました。今年のCL 決勝はパリ・サンジエルマン・バイエルンのカードでしたが、パリ・サンジエルマン初のCL 決勝進出に貢献、決勝でも安定したプレーを見せ、最終ラインからチームを支えていました。年齢を考えると、トッピ・パフオーマンスは維持できて後一、二年ほどだと思いますが、若手が多く、今シーズン五十四失点と下位チーム並みの失点数を喫したシェルシーのDF ラインにとつて最も必要なリーダーシップと経験を兼ね備えた選手であることは間違いないです。眞のプロフェッショナルであるシウバを手本にシェルシーの若手が奮起、奮闘してくれることを願います。ちなみに、シウバはパリ・サンジェルマンを契約満了で退団しているので移籍金はゼロです。もしかしたら、シェルシーにとつてはこの補強が一番デカいかもしません。ドイツの新皇帝ハベルツはコロナ禍でなければ、欧洲各国のビッグクラブによる争奪戦が勃発していたことは間違いないでしょう。移籍金は九千万ポンド（約百二十五億円）でチーム間合意したと報じられています。コロナ禍でどこのチームも懐事情が厳しい中、この金額をポンつと支

払えるチームは選手補強禁止処分+冬の移籍市場をスルー+エデン・アザールなど複数選手の放出資金で資金に余裕があるチエルシ一くらいしかないでしょう。

他にも数人、選手補強の噂はありますが、主な選手補強はこの五人（三人はまだ確定していないですが）でしょう。百点満点中百二十点の選手補強だと思います。今年はコロナの影響で、オフシーズンが短くなつており、既に多くのチームがトレーニングを始めています。新加入の選手が怪我なく、いかに早くチーム、そしてイングランドのサッカーに馴染めるかが非常に重要です。リヴァプールとマンチェスター・シティの二強時代が続くイングランドサッカーですが、二年目を迎えるランペード・チエルシーがこの間に割つて入ってくれることを全私が期待しています。

追記：三十日現在、チルウェル、シウバ、そしてニース（フランス）からのDF マラング・サール（U-21 フランス代表）をフリーで獲得しました。20-21 シーズンは他クラブへ期限付き移籍させ経験を積ませるようですが、二十九日に行われたプレシーズンマッチ（チルウェル、シウバ不在）を見る限り、やはり既存の守備戦力には不安しかないのですぐにチエルシーで競わせて良いのではないかと思います。実際にサールのプレーを見たことはないのですが、今のリュディガーより下といふことはないでしょう。どうなつてんだよリュディガー。



帝京大学 法学部法律学科 三年

川村 恭史

対応でお願い！

「人生の最も貴重な瞬間、それは決断の時である」これは『アニメンタリー 決断』という太平洋戦争の真珠湾攻撃から日本の敗戦に至るまで米軍側と日本側の指揮官の決断を描いた作品の一節です。人の人生において決断とは切っても切れない存在です。例えば、日々の買い物から日常会話の中、あるいは未来を決める決断その性質や様様は様々です。私自身も大学の期末テストが全てレポート試験になってしまったためかなり切羽詰まつた状況の中で奮起を書き進めることを決断して今書いています。この書くという決断以外にも何を書くかどのような意味を持たせるのかということを考えるとなんか鬱になりそうです。おかげで息苦しい日々を送っています。(ちなみに皆さんのが手に取っているこちらの冊子の編集も後で私がやります。あ、もうめちゃくちゃだよ！)

話を戻すとしましよう。決断というのは本当に難しいのです。この話を進めるに差し当たって参考文献と幾つかの順序を紹介します。参考にした文献は『武器としての決断思考』です。話す順序は本でいえば目次です。一つ目は「決断するための武器」、二つ目は「メリットとデメリットを比較する思考」、三つ目は「実学」、四つ目は「終わりに」この四つです。これがインターネットサイトでは以下のURLをクリック！で済みますが紙媒体なので目で追うなどのアナログな

まずは、「決断するための武器」です。今まで就職は大企業を選べばエスカレーター式でした。といつても高度経済成長や安定期の時期の話ですが、新卒で入社して、十年後には係長、二十年後には課長、三十年後には部長、六十歳で定年退職といった具合で安定していました。自身のポジションや給料も出世コースも概ね自動で決まっていました。多くの人がこんな人生をイメージしていたのです。しかし、このような安定と幸福な時代は過去のもので会社自体の寿命も人間の寿命より短くなっているともいわれています。つまり、誰も将来を明確に予測できない。過去のやり方ではなく、自分の人に対し最善の「意思決定」を行う。それが出来なくとも次善の「意思決定」をする必要があるのです。その「意思決定」を養ううえで本書ではディベートを勧めています。具体的には、あるテーマを設定して賛成・反対を直前のくじ引きで決め、どちらの立場になるかは分からないようにします。ここで重要なのが両者の立場の意見を事前に用意して自分の頭の中で整理する必要があるのです。これこそがディベートの本質であり、この経験を積んでいくことで自分の人生においてこの思考法は「意思決定」にこそ使える武器になります。

ここで重要なのが二つ目の「メリットとデメリットを比較する思考」です。ものすごく簡単なことだと思います。自分がある行動をとったときに発生するメリットとデメリットを比較する思考は日常的に使われているはずだからです。勿論、そのメリットとデメリッ

トにはそれぞれ重みが違いこれをしつかり見極める必要があります。自分がよくやりがちな行動としてはデメリットばかり気にしてしまいます。具体例を挙げるなら、大学三年のこの時期なっても自動車免許持つていなかつたり、大学であまり人に話しかけないから大学で友達がいないことなどです。話を戻して、逆のパターンも存在します。メリットばかりに目がいって失敗するパターンです。先日、ある人からこんな話がきました。新しい冷蔵庫が欲しいから僕のアマゾンアカウントで買ってほしいと言われました。その際、親が納得しているのか、今ある冷蔵庫だけではダメなのか、置き場所は大丈夫なのか、冷蔵庫のサイズは大丈夫なのか、アマゾンよりも保証期間が長いお店で買ったほうがいいのではないかなどを僕は確認をしました。結果、アマゾンではなくお店で購入することになり僕は余計な仕事が減ったと安堵しているのは束の間で冷蔵庫購入の反対だった親は怒り、冷蔵庫のサイズが予想よりも大きかったせいかあるから親との仲介をしてほしいという話が来ました。(なんかもうヤダこの人)こういった失敗をしないように大切なのがメリットとデメリットを成立させるそれぞれ三つの条件です。まずは、メリットの三条件から(ある人への当てつけではありません)「何らかの問題があつて(内因性)そしてその問題が深刻で(重要性)どのような行動で解決するか(解決性)です」。例えば、①冷蔵庫の貯蔵量が少なくて困っています(内因性)②冷蔵庫の貯蔵量が少ないと忙しいときでも調理時間の短縮ができる作り置き料理の保存が難しく他にも大

きな食材が入らない(重要性)この冷蔵庫があれば大きな食材や作り置きが入る(解決性)といった感じです。即席なので色々突つ込みどころがありますが…。【これ以上はいけないある人に怒られる】逆にデメリットの三条件は「その行動をとつたときに起きる新たな問題(発生過程)が深刻であること(深刻性)そして新たに発生する問題が現状発生していないこと(固有性)です。ここで重要なのがその行動をとつたときに起きる問題の過程をしつかりと説明することです。ここで使う具体例を参考にしている文献から取り上げたいと思います。理由は論題として取り上げられていたパソコンである『富岳』が世界一位となつたからです。この経緯は二〇〇九年に遡り新しいスペコンを作るために「スペコンの予算を削減すべきか、否か」の事業仕分けで起きた問題です。民主党某議員の「二位じやダメなんですか」という発言が印象強いニュースでした。(①予算を削減すると、スペコン世界一を目指せなくなる。(発生過程1)そうなると科学者達は目標を失いモチベーションが落ちてしまいます。(発生過程2)科学者のやる気がなくなると、今後の科学技術の発展が遅れてしまう。(発生過程3)②科学技術の発展に遅れが出ると今後の日本経済にとって損失につながります。(深刻性)現状では予算がそれなりにあるからスペコン世界一を目指せます。(固有性)】このような形で発生過程に資料や想像力、注意をはらつて考えるごとです。自分がこのような考え方を巡らせているときにも新たな問題が発生していないかなどその注意は多岐にわたることもここで指摘しておきたいところです。また、自らの「好き嫌い」や「得意不得

手」といった主観的なものは一度捨ててメリットとデメリットを徹底的にぶつかり合わせることが最終的に客観に基づいた決断を導いてくれるはずです。

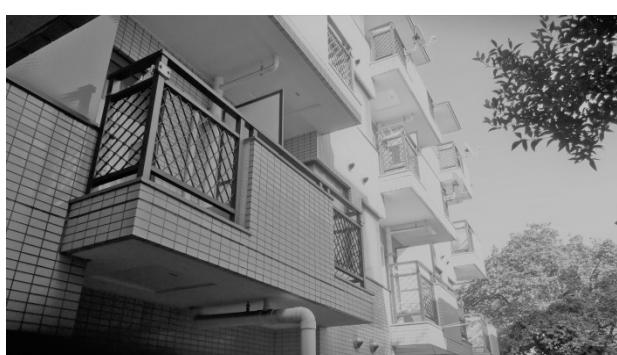
次に、「実学」です。私の大学でも実学という言葉をよく聞きます。

簡単に言うと実生活で役立つ学問ということです。私自身も就職後に必要な報連相や色々な業界の企業努力を学びました。(これ以上具体例を挙げると専門が明かないので割愛)今の流れからして実学って結構大切な学問だと思いますよね。著者である瀧本さんは実学について「知識・判断・行動」の三つに分かれていると言っています。実学の世界では知識があつても、それが判断に繋がっていないかったり、最終的な行動に起因せなかつたりした場合それは意味ありません。「知識・判断・行動」はすべてそろつてはじめて意味を持つのです。私は今期大学の授業で簿記を勉強しました。これは会計で重要な学問です。しかし、簿記を勉強しようと決算処理が出来たところで自分の代わりはいくらでもいるのです。それもこれから十年二十年後には労働市場は厳しくなるかも知れない。特に今はコロナ下によつて内定取り消しやリストラなど今まで売り手市場といわれた状況は大きく変わっていきます。専門的な知識を持つていたところで交換不可能な人材ではないのです。しかし、ここで「知識・判断・行動」全てセットでできるようにするとどうでしょうか?具体例として会計の知識を使ってビジネス判断を提供できてその提案からさらに一步進んで支社のバランスシートを持って地元の銀行に掛け合つてお金の借り入れまでできる人材これこそ交換不可能な人材ではなく

いでしようか。

終わりに、今回は文字数の制約上書きそびれてしまつたことや本業の学業との兼ね合いもあり十分に分かりやすい文章が書けなくて少し後悔があります。しかし、興味がある方は今回取り上げた文献を読んでみると面白いかもしません。歴史上には多くの判断や決断のミスにより個人の盛衰だけでなく国家の盛衰も大きく分かれていることは言うまでもなくその責任はとても重いのです。しかし、その重さをデメリットに捉えるのではなく日常的にどの選択肢が最善なのか、失敗したときはどれが次善の決断なのか、どんな行動をとると失敗あるいは問題が発生するのか想像することは楽しいもので良い経験になると考えて実行してみてほしいとそう思う次第です。

『武器としての決断思考』 著者 瀧本哲史 発行者 杉原幹之助・大田克史



東京工業大学 物質理工学院 二年

長藤 瑛哉

新型コロナウイルス感染症が日本で流行し始めて、早いことにもう半年が経つてしましました。こんなに長く自粛生活が続くとは夢にも思っていませんでした。ただ、私は一年間の浪人経験があつて、その時にずっと家に引きこもつて家族以外とあまり交流せずに過ごすということをしていたので、この半年の自粛期間もあまり苦ではありませんでした。ただ、いまだにコロナが収束する気配がないのでこの自粛がいつまで続くことになるのかと思うと、とても不安な気持ちになります。コロナのせいで本当なら大学生のうちに楽しめたはずの活動（海外留学、旅行など）ができなくてとても悲しいです。海外留学にもっと早く行つておけばよかったとともに後悔しています。（海外には当分行けそうにないので……）

コロナによって、テレワークを推進したり、新しい生活様式に移行したり信じられないスピードで社会が変化しているのを、新聞を読んだり、ニュースを見たりして日々実感します。

コロナのせいで変化したのは社会だけでなく、私の生活も大きく変わりました。大学の講義、バイト、友人との関係、運動習慣などコロナ前には想像もしなかつた形になりました。以下にそれぞれがどのように変化したのかを述べます。

大学の講義に関しては、前期の授業は全てオンラインだったのです

結局一度も大学に登校することができなかつたです。ただ、オンライン授業は思つていたよりも快適で、今ではむしろ、座学に関してはオンライン授業でもいいのではないかと思つています。ただ、大学の授業をオンラインで行うことにはいくつかデメリットがあると感じました。1つ目は、大学の最も重要な存在意義である人と人の交流が制限されてしまう点です。大学の講義室で授業を受けていれば、たまたま近くに座った人と仲良くなれたり、課題を一緒にやることで仲良くなったり、友達を作る機会が割とありふれているのですが、オンラインの講義ではそのような機会がほとんどありません。私も今年になって授業を通して新しい友達を作ることができていません。友達に聞いても、オンライン授業での友達作りには苦労しているようです。そこで、私は今所属している大学の自立支援部門傘下の学生団体で、オンライン交流会を企画していて、夏休み中に東工大の新入生対象のオンライン交流会を2回行う予定です。自分の中では五人くらい応募してくれる人がいればいいなど考えていましたが、二十人くらい応募があつたのでとても嬉しかつたです。まだ大学に一度も登校できていない新入生の不安が少しでも取り除ける企画にしたいです。ゆくゆくは新入生だけではなく全ての東工大生を対象としたオンラインで交流できる企画も作つたいです。2つ目は、パソコンの前で長時間講義を眺めることになるので、目がものすごく疲れて、肩こりもひどいです。この点に関しては自分で適宜遠くを見たり、ストレッチをしたりして改善していくたいです。オンライン授業で私が最も驚いたのはオンライン

実験です。オンライン実験の流れとしては、教授たちが行った実験を録画し、その動画を見て、班ごとに議論をして、レポートを書くというものでした。オンライン実験を受けてみて、やっぱり実験は自分の手を動かさないとあまり意味がないなと思いました。後期からは実験科目だけは対面で行われる予定なのでとても楽しみです。

バイトに関しては、私は東急電鉄で駅員としてアルバイトをしていたのですが、コロナの影響で電車に乗る人が少なくなってしまつたので、最近はめつきり仕事がなくなってしまいました。本当はいつも満員で駅員が押し込まないと電車の扉が閉まらないほどだったのに、コロナが流行り始めてから、目に見えて電車がスカスカになつたのでコロナの影響の大きさにとても驚きました。また、コロナのおかげで良くも悪くもテレワークが推進されているので、コロナが収まつた後も、乗客が戻ってきて、今までのようにバイトができるのか少し不安があります。駅員のバイトでは十分に稼ぐことができないので、塾講師のバイトを頑張ろうと思います。私の働いている塾では4月から在宅勤務ができるようになつたので、コロナ禍の中でも安心して勤務することができ、とてもありがたいです。

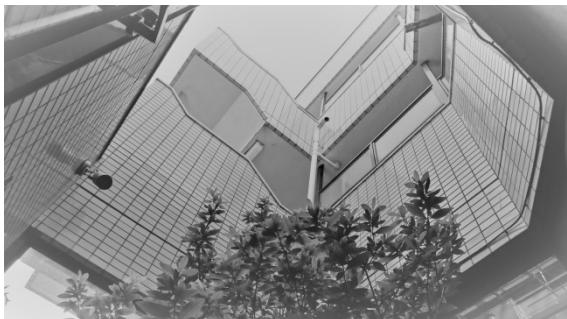
友人との関係に関しては、自粛期間前は電話を使って、友達と会話するということをしたことが無かつたのですが、自粛期間中は直接会つて会話することができないので、仕方なく電話を使い始めました。ただ一度やってみると、電話を使って友達と会話するというのは思つたほど悪くなく、むしろ対面より心地よく感じました。それから電話で話すことにはまつてしまい、自粛期間中は高校時代の

同期や大学の友達と頻繁に電話をするようになりました。まさか自分がこんなに電話を多用するようになるとはコロナ前には考えられませんでした。

運動習慣については、自粛期間中の初期は本当に家に籠りきりになつてしまつて、ほとんど動かなくなつてしましました。そのせいか筋肉がどんどん衰えて、座つていてるだけで腰が痛くなるようになつてしましました。流石にこれはまずいと思ったので、意識して運動するように心がけました。最近は中高生の時にやつていた硬式テニスをよくやつています。一人で素振りをしたり、テニススクールに行つて練習したりしています。その甲斐もあつて、最近は腰が痛くなることはなくなりました。運動の大切さを実感した自粛期間でした。

以上で述べたようにコロナによって、私の生活は大きく変わりましたが、全てが悪い方に変わつたというより、新たな価値観を獲得することができたとしても有意義な期間だつたと思います。

大学生らしいことがあまりできないといふ点では少し残念な期間ですが、この期間がしっかりと人生の糧になると信じて、これから頑張つていこうと思ひます。



## 二年生になって

東京工業大学 工学院 二年  
森本 龍

今年から東京生活も二年目となりました。昨年度もこの時期に同じように舍誌を書かせていただき、その時は自分の専門分野について書きました。当時は工学院一年目で、教養科目として数学では線形代数、微分積分、物理では力学、電磁気学を主として学びました。

工学院には二年目からの行き先の学科として、機械系、電気電子系、経営工学系、システム制御系、情報通信系があります。そのなかでも私はシステム制御系を自分の専攻科目として選択し今年から学んでいます。この私の舍誌では私が選んだシステム制御についてと、この半年で学んだことを書いていきたいと思います。

満たすモノを作り出すか、このまとまりをシステムといいます。次に制御ですが、制御の意味は分かりやすいと思います。一応ですが辞書には「自由勝手にふるまわせず、おさえつけて自分の思うように支配する」と。(google 検索 Oxford Language より)と書いてあります。これもモノづくりの観点で考えてみると、需要に対してシステムを考えたとします、そこでどのような入力、出力をするかを調整していくことで需要を満たす動きをするかを考えていくことを制御といいます。

一つ例を考えてみます。需要として入力した文字を自動で書いてくれるロボットを作つてほしいというものがわかつたとします。この需要に対するシステムは、どのような形状、材料、仕組みで文字を認識してその文字をどのように書き起こすのかというものにあたります。例えばタッチパネルのようなものに入力してもらい、出力をアーム付きのロボットが書いてくれるロボットなど考えれば様々なものがあります。制御はこれに対してもう文字を認識してからの出力までの仕組みです。先ほどの例でいえば、認識した文字に対してロボットのアームをどのように動かして求める出力を得るかに当たります。長くなりましたがこれで少しばかりシステム制御について理解してください。

まず一つ目のシステムについてですが、辞書には、「多くの物事や一連のはたらきを秩序立てた全体的なまとまり。」(google 検索 Oxford Language より)と書いてあります。工学的な意味視点でのシステムとはモノづくりの場面を考えてみるとよく分かります。需要に対してもうどのような仕組み、動力源、材料を駆使してその需要を

という数理計算ソフトの使い方を学んだ」とです。matlab では専用

の言語を用いて計算が行えます。また計算結果をグラフに起こすことが可能です。このmatlabはシステム制御と相性が良く、よくつかわれるのは入力に対する出力をグラフで表示することで、システムの動きをシミュレーションすることができます。これだけではなく様々な追加のパッケージがありシステム制御に用いられるものがたくさんあり、現在進行形で学んでいます。これと同時にプログラミングの講義も本格的に始まりました。私が学んでいるプログラミング言語はC言語というものです。プログラミング言語には様々なものがありますが、その中でもメジャーで、その中でもモノづくりでの組み込みに用いられる言語です。学ぶことでできることが増えていき、楽しいのですが、プログラミングの学習で悩んでいることがあります。それは何でもできるようになるらしいのですが、何ができるのか分からぬということです。今が基礎を学んでいる段階であるため仕方はないのですが、システム制御に絡めてもう少し深く学んでいきたいです。

一年度とは違い、専門科目となりましたがこの専門科目のための基礎科目としての数学も学びました。数学には学びきれないほどの分野があるのかもしれません。私が学んだのはフーリエ変換についてです。これは制御系とともに相性が良いです。説明が難しのですが、簡単に説明すると、制御系を設計するにあたって、動作を考えますがその考える環境をより簡単な環境にする変換です。こんなことを考え付いた過去の偉人の頭はどうなっていたのか本当に気になりました。

また、私が一番システム制御について学べた講義は動的システム基礎という講義で、制御について一から学べました。この講義では簡単な入力、例えば初めから終わりまでずっと一という入力（ステップ入力）に対する応答などを学びました。聞いたことがあるかは分かりませんが、物理の世界に運動方程式というものがあります。簡単に説明すると、与えられた力に対して物体がどのような動きをするかというものが式になつたものです。この運動方程式においての、力とは入力の値し、どのような動きをするかが出力に値します。これを用いて入力に対する出力を学べました。

まだまだ入門したてで学ぶべきことが多いですが、まだまだ知らないことがたくさんあると考えると自分の興味がある分野であるため楽しみです。まだ未定ではありますがいまのところ大学院進学を考えております。それまで岩陽学舎にお世話になると思うので、また来年新たなことを学び、舍誌として書きたいと思います。

## 私の生き立ち

早稲田大学 教育学部 二年

國次 倭

今年も去年と同様に舍誌を書く季節がやってきたが、正直ネタが何も思いつかないので、できるだけ多くの人に自分のことをもつとよく知つてもらいたいという気持ちも込めて、自分の生き立ちを書いていきたいと思う。自叙伝という大仰なものとまではいかないが、今年で二十歳を迎えたということもあるため、今までの人生の振り返りという意味も込めて自分が生まれてからどのように生きていたかを通時的に書き記していく。

私は二〇〇〇年の七月九日にこの世に生を受けた。もちろん記憶にはないが、親曰く東京都の高円寺の病院で生まれたらしい。今自分は身長一七九センチメートルということもあり、そこそこ大きな団体をしているが、これは生まれつき体が比較的大きかったからでもあるようだ。生まれてから三歳までは神奈川県川崎市に住んでいた。家の最寄駅は新丸子という駅だったらしいが、正直この頃の記憶は全くない。両親が昔撮つておいてくれたホームビデオを見るとこの頃の自分の様子を見る事ができるが、こういうものを見るとびにどんな人間も幼い頃は可愛かったのだなあとふと思う。新丸子の家は多摩川が近くにあったということもあり自然豊かな場所だったのだと思う。機会があればまた訪れてみたい。

そして三歳になると引っ越しをし、東京都の花小金井の周辺に七

歳まで住んでいた。幼稚園入学から小学校一年生くらいまでである。

幼稚園生の頃の自分はかなり悪戯好きの少年だつたように思える。

女の子の靴を隠して怒られた記憶が未だにあるからである。それと同時にかなり泣き虫な少年であつた。先生や両親に怒られるたびに涙を流していた記憶があるからである。そしてそのまま幼稚園を卒業し、地元の公立の小学校に入学した。この小学校は入学してから一年も経たないうちに転校をしてしまつたためあまり記憶には残っていないが、漠然と楽しかった記憶だけは残つている。学校が終わると放課後は毎日のようく友達と公園で体を動かしたり、ゲームをやつていた記憶がある。特にポケットモンスターは当時かなり熱中したゲームの中の一つだ。しかし、小学校一年生の二月頃に家の事情で転校することになつてしまつ。引越しに際して、クラスの全員が書いてくれたメッセージを一冊にまとめた冊子のようなものをもらったときは非常に感動したというのを覚えている。引越し間際の登校日にクラス全員の前で自分がクラスに当てて書いた手紙をクラス全員の前で読む機会があつたのだが、私はそこで涙を流してしまつた。恐らくクラスの皆や多くの人々は仲の良い友達と別れたりすることへの悲しみから涙を流してしまつたと思うに違ひないだろう。

しかし実際はそうではなく、私はクラス全員の前で読み上げるという行為が、当時極度の恥ずかしがり屋だつた自分にとってはこの上なく辛く、それ故に涙を流してしまつたのである。今思えば馬鹿げた話である。当時は精神的にかなり未熟であったということが窺える。

そして私は花小金井から東京都の中野区に引っ越しをした。中野区は小学校、中学校時代の十年以上を過ごした非常に思い入れのある街である。中野区の公立小学校に転入した私であったが、ここでも極度の恥ずかしがり屋っぷりを發揮し、初めはあまり馴染めずにいた。そんな私を見兼ねたのか心配してくれたのかわからないが、私の担任の先生が、私の家と近いところに住んでいる子がいるから一緒に遊んでみてはどうかという提案をしてくれた。非常に粋な計らいである。それからとくに、徐々に仲の良い友達が増えていき、学校の人たちとも次第に馴染めるようになつていったのである。友達が増えてからは毎日のように放課後は外で遊んでいた。埠に登つたり、火遊びをしたり、ピンポンダッシュをしたり、他校の児童と喧嘩をしたりするなど今思えばかなりの悪ガキだったと思う。また、とにかく体を動かすのが好きだったため。街中で鬼ごっこをしたり、サッカー、ボールくらいの大きさのボールを投げ合つて遊ぶ「カタキ」という遊びをしたりしていた。人に迷惑をかけることばかりしていたので今はかなり反省しているが、当時はかなり楽しく遊んでいた記憶がある。

そして私は小学校四年生の頃地元のサッカークラブに入団し、サッカーをやり始めた。なぜサッカーを始めたかというと、当時二〇一〇年に行われたワールドカップの本田圭佑選手をはじめとする日本代表のプレーに感銘を受け、自分もこのようなプレーがしてみたいと思つたからである。また、そのサッカークラブに友達がいたからである。運動をすることがかなり好きだったということもあり、

サッカーは非常に楽しかった。しかし正直なところサッカーの才能はなかつたと思う。足でボールをコントロールするのは自分にとってはかなり困難なことであつたし、チームでもあまり活躍できていなかつた。そのため小学校卒業と同時にサッカーはやめてしまった。そして中学校は地元の公立校に入学をした。中学校に入学すると、私はバスケット部に入部をした。背丈だけは周りより比較的あつたのと、友達の誘いもあつたためである。バスケもサッカーと同様にかなり難しいスポーツではあつたが、部活ということもあり毎日のように練習をしていたため、少しずつではあるが上達もしていった。上級生の数が少なかつたということもあり一年生の時からスタメンで試合に出ることができ、そこで少しではあるが活躍することもできた。バスケはかなり楽しかつたが、やはり部活でやつていると辛い部分も多くあつた。特に顧問の先生が非常に厳しく、気に喰わないプレーがあると無茶苦茶に怒鳴つてくる人だつたのが辛かつた要素の一つである。自分のプレーがあまり良くなかつたというのももちろんあるが、この先生にはかなり怒鳴られたし、正直怖いと思つていた。バスケは好きだが、バスケット部は好きじやないというのが正直なところであつた。そして三年生になると部活を引退し、そこからは高校受験に向けて勉強に本腰を入れ始めた。勉強はそこまで得意ではなかつたが、友達と一緒に勉強したり、塾にも通い始めたりして成績は順調に伸びていつた。科目としては英語が一番好きで、英検などといった検定試験も進んで受験をしたりしていた。高校は都立の高校を受ける予定であったが、家の事情で今度は山口県の岩国市に引

つ越すことになったため、県立の高校を受験することになった。受験当日は東京から山口まで飛行機で移動して現地で受験しなければならなかつたためかなり大変だつたし、緊張もしたが、今までの積み重ねもあつたためなんとか合格することができた。十年以上住んだ地元を離れるのは正直かなり辛かつたし、行きたくもなかつたためかなり不安を抱えたまま引っ越しをした。

高校では外国語研究部という部活に所属した。正直自分の能力では三年間ハードな運動部に所属しながら勉強も両立するというのには不可能だと思ったため文化部に所属することにした。また、純粹に英語を勉強することが好きだつたというのも理由の一つである。あまり活発に活動をする部活ではなかつたため勉強との両立はしやすかつたし、毎回ALTの先生が学校まで来てくれていたので英会話の能力も少しではあるが身についたと思う。高校では部活よりもどちらかというと大学受験に向けた勉強に力を入れて生活をしていた。特に英語は相変わらず好きだつたため力を入れて勉強をし、在学中に英検準一級を取ることもできた。大学受験は高校に入学した時から東京の大学に行くと決めていたので、受験した大学は全て都内の大学であった。受験は完全に成功したというわけではなかつたが、行きたかった大学には合格することができたので都内の大学に通うことになつた。

大学は自分の好きな英語を活かすことのできる英文学科に進学を決めた。自分の所属する学科では英文学、米文学、英語史、言語学など英語や言語に関わる学問を学ぶことができる。中でも自分は今

言語学に興味があるため、来年から始めるゼミも言語学系のものに所属しようかと考えているところである。現在は新型コロナウイルスの影響もあり大学に通うことはできていないが、ある程度充実した大学生活を送ることができていると感じる。

以上で自分の生い立ちの説明は終わるが、たまにはこうして自分の人生を振り返ってみるのも良いことだと感じた。反省すべきところも沢山あつたし、今年はもう二十歳で大人の仲間入りを果たすため、さらにしつかりと自立した大人になっていきたいと感じる。



最近『hulu』というアプリをインストールし、四つのドラマを見ました。ここではその四つのドラマについて思ったことを書いていこうと思います。ちなみにすべてのドラマは学園ものです。私は学園もののドラマがとても好きなので。

1つ目に見たドラマ『ごくせん』です。小さいころにシーズン3の『ごくせん』は見たことありましたが今回見たのは『ごくせん』のシーズン1のものです。キャストは仲間由紀恵、生瀬勝久、嵐の松本潤、小栗旬、成宮寛貴、石垣佑磨、脇知弘、松山ケンイチなどです。個人的に松本潤と小栗旬と成宮寛貴はとても好きです。小栗旬と松本潤は花より団子でも共演していたのでここでも共演していることを知れて興奮しました。仲間由紀恵が演じる山口久美子が問題ばかり起こす不良生徒が集まる3年D組の担任になるところから物語は始まります。実はこの山口久美子は7歳の時に両親を亡くしてから任侠集団の大江戸一家の3代目に育てられめちゃくちゃ強くなりました。生瀬勝久はその学校の教頭役で出演していますが、この人はほんとうに教頭役が似合うと思いました。この教頭は学校をよりよくしようと3年D組の生徒をすぐに退学にさせようとします。いわゆる嫌な奴キャラです。ですが、この人と山口久美子とのやり取りがとても面白くていつも笑ってしまいます。3年D組の生

徒ははじめ先生なんかくそだとおもっていましたが、熱血教師である山口久美子にだんだん気を許していくという感じです。3年D組の人たちはだんだんいいやつになってきているのに世間の目はなかなか変わらないというのがとてももどかしかったです。山口久美子が武器を持った高校生や暴走族と戦うシーンが何回もあるのですが、その時の仲間由紀恵がとてもかっこいいです。シーズン2はまだ見てないのでDVDを借りてみたいと思いました。シーズン3も10年以上前になるので見返したいです。

2つ目に見たのは『学校じや教えられない！』です。このドラマは聞いたことありませんでしたが内容が面白そうだったので見てみることにしました。キャストは深田恭子しか知りませんでしたが主人公は映画B E C Kのドラマ役の人であることがわかりました。ほのかのキャストもあまりぱっとしませんでしたが、深田恭子がとてもかわいかつたので最後まで飽きることなく見ることができました。ここで深田恭子は社交ダンス部の顧問で女子高だった高校に入学してきた5人の男子はこの社交ダンス部に入部することになりました。社交ダンス部には学校で浮いていた、5人の女子もいましたがはじめはみんな全然やる気ではありませんでした。いろいろあつて社交ダンス部は一丸となつてきます。しかし、ここでも嫌な奴キャラの校長代理の女と生徒会長が男子をよく思つておらず何とか社交ダンス部を廃部にし、男子を退学にさせようします。それを何とか乗り越えて社交ダンス部内でのきずなを深めていくのですが、深め

すぎてたまに気持ち悪いです。このドラマでは友情や愛情をテーマにしており学校では学べないことを深キヨンと一緒に学んでいくというようなものです。ドラマの内容は普通ですが、深キヨンのキャラがかわいいのでぜひ見てみてください。

3つ目に見たのは『学校のカイダン』です。これは中2ぐらいのときに一度見たことありましたが、とても面白かった思い出があつたのでもう一度見てみることにしました。キャストは生徒会長役で広瀬すず、謎の男神木隆之介、教頭役でまた生瀬勝久でした。この学校は私立ですが広瀬すずが演じるはるなつばめは特別採用枠といふもので無償で学校に受け入れられています。また、多額な寄付金を払っている8人のことをプラチナ8というのですがこの人たちがまるで王様のような振る舞いを学校でします。はるなつばめはそのような学校の状況を打破するために謎の男の指示に従いながら、言葉を用いて人々の心を動かしていく。そして、最終的には本当の敵がプラチナ8ではないということに気づき始め生と全体が一丸となって本当の敵に立ち向かっていくというストーリーです。このドラマのテーマは差別やいじめ学校の闇のような感じです。広瀬すずはもちろんかわいいかったです。もちろんかわいいですが、プラチナ8の杉咲花も最初は嫌な役でしたがかわいくて目の保養でした。このドラマでは神木隆之介と広瀬すずの演技力がすごくて見入ってしまいました。また、学校が豪華すぎました。あと制服も。私もこんな高校で学生生活をおくつてみたかったなと思いました。このドラマでは予想外のことが多々

あり、いつもハラハラドキドキで見ることができとても楽しむことができました。普通の学園もののドラマとは一味違うので見てみてください。

4つ目に見たドラマは『35歳の高校生』です。このドラマは昔ちよこつとだけ見たことがありましたが全部は見たことなかつたです。主演は米倉涼子でばあやこ役。広瀬アリスと菅田将暉と野村周平、山崎賢人などが出演しています。私は菅田将暉が大好きなので見るのがとても楽しみでした。このドラマのテーマはスクールカーストです。35歳の高校生が来るまでは1軍2軍3軍と分けられたクラスで人々が自分の階級に見合った振る舞いをしていました。この謎多き35歳の高校生が来たことによってだんだんといじめが減つて1軍のいいなりになつていた人を解き放つたりしていきます。このドラマでは1軍、黒幕、35歳の高校生、教師などさまざまな勢力に分かれています、伏線がたくさんあつて最終回が劇的に面白くなるように作られていました。菅田将暉は最初から最後までほぼ1軍の嫌な奴の役でしたが、めちゃめちゃかつこよかつたので、全然腹が立ちませんでした。むしろもつとやれと思つていました。やっぱり菅田将暉はかつこいいだけでなく演技力もすごいなと思いました。このドラマと3年A組というドラマでの菅田将暉の役柄はあいたいするもので比べてみると本当に驚きます。菅田将暉が出演しているドラマと映画は全部見たいなと思いました。

学園もののドラマに共通することは大体主人公ははじめ嫌われて  
いるということですそして色んなストーリーを繰り広げ最終的には  
ほぼ全員が仲間になつています。あと、教師のナンバーワンは大体  
いいやつナンバー2は大体嫌な奴でした。全部が全部ではないです  
が。この夏休み時間がいっぱいあるので他にも面白そうなドラマを  
見てみたいなと思いました。

---

はじめての方ははじめて、「舍報で見かけたよー」という方は、ここには。私は学舎の広報担当として皆さんに手に取っている舍誌の編集や学舎SNS（主にTwitter、Facebook）の管理などを行っています。ここでは編集の話と陰に潜む闇の話をしたいと思います。というのもほとんどの広報担当はこの舍誌編集の話をあまり表立って話をしないからです。この編集後記 자체は今まで無かつたものですが、こういった場で面白可笑しく紹介できたらな」ということで掲載します。（本当は舍生が少なくて掲載できる記事が少ないからページ数増やすためというのは内緒）

私は、広報という役職を拝命したとき引き継ぎ資料には「こんなにちは。先代広報です。広報就任、おめでとうございます。最初に申し上げておきますと、広報つて意外と大変ですよ（笑）。でも絶対大田さん（舍監）のほうが5000兆倍くらい大変なので、いい感じに頑張つてください。」という文章を見て『これは嫌な役回りに回されたなあ』と思いました。しかも、意外と大変ですよと書いてますが、私からしたらかなり大変でした。もう既に発行済みの舍報や現在準備中の舍誌などの編集をこなすだけなら簡単に見えるかもしれません。実際はそんな単純な仕事ではなく、絶対忘れそうな、覚えていても出さなそうな輩との戦いなのです。というのも、舍報や舍誌は学生の皆さんのが書いたものを掲載する以上は締め切り関係でよ

く問題が起きるのです。今年は例年と同じように月一の幹部会や舍生会などで、舍報や舍誌の締め切り日（リマインド）が対面では出来ませんでした。理由はあいつです。そうコロナです。本来なら舍生会を通して対面で前述した彼らに対面で強調し釘を刺すのが効果的で私もこれにならって兎に角やつてみようという意気込みでした。しかし、代替のLINEツールを使つたりマインドでは毎回誰かが一ヶ月前に提示した期限を守れなかつたり、自らが提示した期限内に提出しない、返信がないなど人間不信になりそうな闇の部分が私を取り巻くのです。特に、返信がない若しくは既読がついてない輩に対してはLINEを通して「ねえ、本当は見てるんでしよう？返信が無いから今直ぐ部屋に行くよ」とホラーチューンの感覚でリマインドかけようかどうか迷いました。そして、今どうなつてているかと言うと七月下旬にお題自由の旨、文字数三千字程度、八月上旬の提出期限などの大まかな内容をアナウンスした筈なのに十月に入つても編集作業が終わっていない状況です。本来九月までに編集を終わらせて樂をする、早めに発行する予定が破綻してしまい、今も編集後記を書く傍ら彼らにリマインドしているんですよ。長々とこれ以上続けるのはちょっとマズいのでこの辺に。

最後に編集者、広報担当として！岩陽学舎のTwitterやフェイスブックのアカウントのフォローをお願い致します！！学舎の面白さ、楽しさ、青春の日々、学生の間しかできないことを皆さんに共有したいからです。もしかしたら、SNSの投稿を見て皆さんの学生時代の友達と思い出を語り合う機会に繋がつたり？するかも知れません

よ！

闇落ち編集者より



**公益財団法人岩陽学舎役員名簿** (令和2年10月1日現在)

役 職	氏 名	住 所	勤 務 先 等
名誉理事長	吉川 重幹	東京都	吉川家第32代当主
名誉顧問	広中 平祐	東京都	フィールズ賞・文化勲章受章者、岩国市名誉市民
顧 問	弘兼 憲史	東京都	漫画家 (有)ヒロカネプロダクション社長
顧 問	向阪 啓	川崎市	吉川林産興業㈱監査役
理 事 長	伊藤 進吾	岩国市	桧山事務器㈱代表取締役会長
常務理事	手嶋 良夫	東京都	元日本興亜損保社員
理 事	松井 宏通	広島市	(有)岩国さんあい代表取締役
"	大田 憲明	横浜市	公益財団法人岩陽学舎監
"	光井 純	東京都	光井純&アソシエーツ建築設計事務所㈱社長
"	大森 隆司	横浜市	玉川大学工学部教授
"	佐倉 弘之甫	岩国市	元岩国市教育委員会教育長
監 事	菊元 斎	岩国市	(株)岩崎宏健堂社員
"	武田 昇平	東京都	弁護士(ひかり総合法律事務所)
評議員	谷本 浩	東京都	元全日空社員
"	松重 義信	岩国市	元(株)カシワバラコーポレーション役員
"	山口 祐司	岩国市	中学校教諭
"	岡村 吉隆	岩国市	元(株)エスケイエージェンシー取締役副社長
"	中村 信利	岩国市	吉川林産興業㈱取締役
"	川神 敬基	岩国市	元会社役員
職 員			
令和2年9月1日就任			
事務局長・舎監 三宅 克彦	東京都	元(株)カシワバラコーポレーション	

---

2020年11月発行

編集責任者 山根 隆真

発行者 川村 恭史

発行所 岩陽学舎舎生会

〒143-0024

東京都大田区中央3丁目31-15

URL : <http://www.ganyogakusya.jp/>

電話 03(3778)5931



---

©岩陽学舎舎生会

